

平成30年度

全学教育機構 履修の手引き

佐賀大学 全学教育機構

全学教育機構「履修の手引き」

目 次

1	はじめに：履修に際しての留意点	
1-1	学部・学科・課程の記号	1
1-2	授業と単位	2
1-3	シラバス	3
1-4	履修登録	6
1-5	大学からの連絡と掲示板	6
1-6	出席管理システムと講義自動収録配信システム	6
2	佐賀大学の教育課程	
2-1	佐賀大学の教育目的	8
2-2	佐賀大学学士力	8
2-3	教養教育と全学教育機構	8
3	教養教育科目	
3-1	教育科目の編成	10
3-2	佐賀大学学士力と教養教育科目	11
3-3	卒業に必要な教養教育科目の単位数	12
3-4	教養教育の学年進行	14
3-5	教育職員免許状取得の要件となる授業科目	14
4	教養教育科目の履修方法	
4-1	大学入門科目	15
4-2	共通基礎科目	15
4-2-1	外国語科目	
4-2-2	情報リテラシー科目	
4-3	基本教養科目	17
4-4	インターフェース科目	19
4-5	共通教職科目	20
5	特定の教育プログラム	
5-1	留学支援英語教育カリキュラム	21
6	学部間共通教育科目	
6-1	共通専門基礎科目	23
6-2	特定プログラム教育科目	24
7	試験と再履修	
7-1	定期試験	25
7-2	追試験	25
7-3	再試験	25
7-4	再履修と指定外履修	25

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室内の収容人数

8	全学教育機構開講科目の概要	
(1)	大学入門科目	28
(2)	外国語科目	
	英語	29
	日本語	43
(3)	情報リテラシー科目	31
(4)	基本教養科目	
①	自然科学と技術の分野	32
②	文化の分野	33
③	現代社会の分野	34
④	総合科目	35
(5)	インターフェース科目	
①	環境コース	36
②	文化と共生コース	37
③	生活と科学コース	38
④	人間と社会コース	39
⑤	医療・福祉と社会コース	40
⑥	地域・佐賀学コース	41
(6)	共通教職科目	42
(7)	外国人留学生のための授業科目	
	外国語科目 日本語	43
	基本教養科目 日本事情	44
	外国人留学生プログラムのための授業科目	45
(8)	学部間共通教育科目：共通専門基礎科目	46
9	開講科目一覧	47
10	全学教育機構関係規則	63
11	全学教育機構配置図	89
12	教室収容人数一覧	97

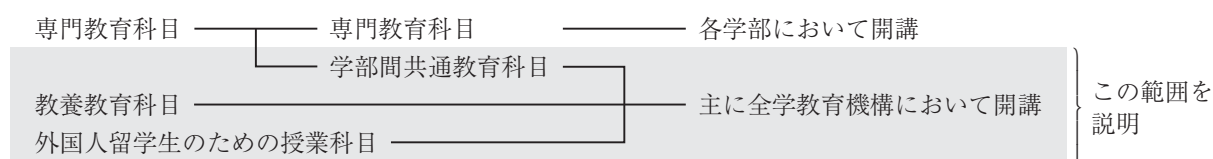
平成30年度 全学教育機構 履修の手引き

1 はじめに：履修に際しての留意点

1-1 学部・学科・課程の記号

佐賀大学（以下では、本学といいます。）の教育課程は、主に各学部において実施される専門教育科目と、主に全学教育機構で実施される教養教育科目から構成されています。この「履修の手引き」では、全学教育機構が開講する教養教育科目と専門教育科目を履修する際に必要な事柄について説明します。

佐賀大学の教育課程



全学教育機構の授業科目では、様々な学部の学生と一緒に受講しますが、学部や学科・課程が指定されたクラスもあります。この「履修の手引き」や時間割などでクラスを指定する際には、学部・学科・課程を表す数字を記号として用いる場合があります。この3桁の数字は、次のように構成された皆さんの学籍番号（8桁）の一部です。

学籍番号の構成	1 8	1 0 1	1 5 0
	入学年次	学部・学科・課程	連番

学部・学科・課程の記号

教育学部	学校教育課程	1 0 1
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	1 2 1
経済学部	経済学科	1 4 1
	経営学科	1 4 2
	経済法学科	1 4 3
医学部	医学科	2 1 1
	看護学科	2 1 2
理工学部	数理科学科	2 3 1
	物理科学科	2 3 2
	知能情報システム学科	2 3 3
	機能物質化学科	2 3 4
	機械システム工学科	2 3 5
	電気電子工学科	2 3 6
	都市工学科	2 3 7
農学部	応用生物科学科	2 5 1
	生物環境科学科	2 5 2
	生命機能科学科	2 5 3

なお、専門教育科目の履修においては、さらに選修やコースなどのクラス分けを行う場合がありますので、注意してください。

1-2 授業と単位

1-2-1 単位制度

本学をはじめ、多くの大学の教育課程は「単位制度」に基づいています。皆さんは、全学教育機構や学部のような授業科目を自ら選択して、履修した後、試験やレポートなどで合格等の評価を受ければ、それぞれの授業科目ごとに一定数の「単位」が与えられます。本学の授業科目は、講義、演習、実験、実習もしくは実技といった種類があり、これらの種類によって、与えられる単位数が異なります。皆さんが本学の教育課程を修了するためには、それぞれの学部が定める科目ごとの単位数をすべて満たさなければなりません。教養教育に関する科目についての各学部が定める「卒業に必要な教養教育科目の単位数」は、P12の表を参照してください。

1-2-2 授業の種類と単位数

本学における学期は前学期と後学期とに分かれています。多くの授業は、各学期とも、毎週1回、90分の授業時間をもって開講されます。本学の授業科目は、原則として、15回の授業と1回の定期試験をもって構成されます。教養教育科目において授業科目ごとに与えられる単位数は、次の通りです。

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| • 大学入門科目 | } 各2単位
(基本教養科目については、一部例外あり。) |
| • 情報リテラシー科目の「情報基礎概論」(講義) | |
| • 基本教養科目 | |
| • インターフェース科目 | |
| • 外国語科目(演習) | } 各1単位 |
| • 情報リテラシー科目の「情報基礎演習」(演習) | |
| • 共通教職科目の「体育実技」(実技) | |

1-2-3 授業と自学自習

本学の学則では、1単位の授業科目を、「45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」と定め、また各授業の種類ごとの単位数を次のように定めています。

- ① 講義については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位
- ② 演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位
- ③ 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位

本学では、90分の授業を2時間の授業とみなしますが、15回の授業だけでは30時間の学修時間に過ぎません。2単位の修得に必要な学習時間を構成する残りの60時間は、実は皆さんが行う「自学自習」の時間です。大学における学修には、授業も大切ですが、それとともに、授業のための予習や復習、あるいは授業の内容にかかわる様々な問題を沈思黙考する時間も不可欠なのです。

本学では、後で少し詳しく説明します「シラバス」(授業の目的・内容・到達目標など、授業概要を記したもの)において、「授業以外の学習」を毎回の授業ごとに指示します。本学の学生として必要な能力を身に付けるために、この「自学自習」も、決して怠ることなく、着実に行ってください。

1-3 シラバス

授業の概要を記したものを「シラバス」と言います。シラバスには、授業科目名、授業の開講年度・学期・曜日校時、授業担当教員、単位数のほか、コースナンバー（※1）、講義概要、到達目標、授業計画、授業以外の学習、成績評価の方法と基準、テキスト、参考図書など、授業科目についての様々な情報が記載されています。シラバスは、**教務システム=Live Campus（※2）**を通してパソコンで見ることができます。次頁の「オンライン・シラバス参照方法」を見て、実際にシラバス検索してみてください。

※1 佐賀大学コースナンバリング制度実施要項より

本学では、学生が受講する授業科目について、その学問分野と水準を容易に確認して主体的に学ぶことを支援するために、授業科目に番号を附し、授業科目の学問分野と水準等を示すコースナンバリング制度を導入しています。

（構成）

1 コースナンバーは、「授業水準」―「分野」―「開設部局等」からなる8桁の文字列で構成しています。

例：物理学の世界 I 1 220x-000

有機化学 I 2 437x-234



2 各コードは、次の①から③に定める内容を示しています。

① 授業水準コード（1桁）

授業水準は、下記に示す1から5の5段階を数値で示しています。

入門的・導入的（1年次履修程度）専門基礎	: 1
中程度の内容（2、3年次履修程度）専門必修	: 2
応用・高度な内容（4年次履修）専門選択・卒業制作・研究など	: 3
修士課程・博士前期課程	: 4
博士後期課程・博士課程	: 5

② 分野コード（4桁+1桁（アルファベット小文字）=4桁）

授業科目が対象とする主たる学問分野を日本図書分類要目表（第3次区分表）に基づき分類したコード（3桁）と各部局が定義できるアルファベット小文字（1桁）で構成しています。

③ 第6～8文字コード

開設部局等（学部・学科等）を示す3桁の数値です。

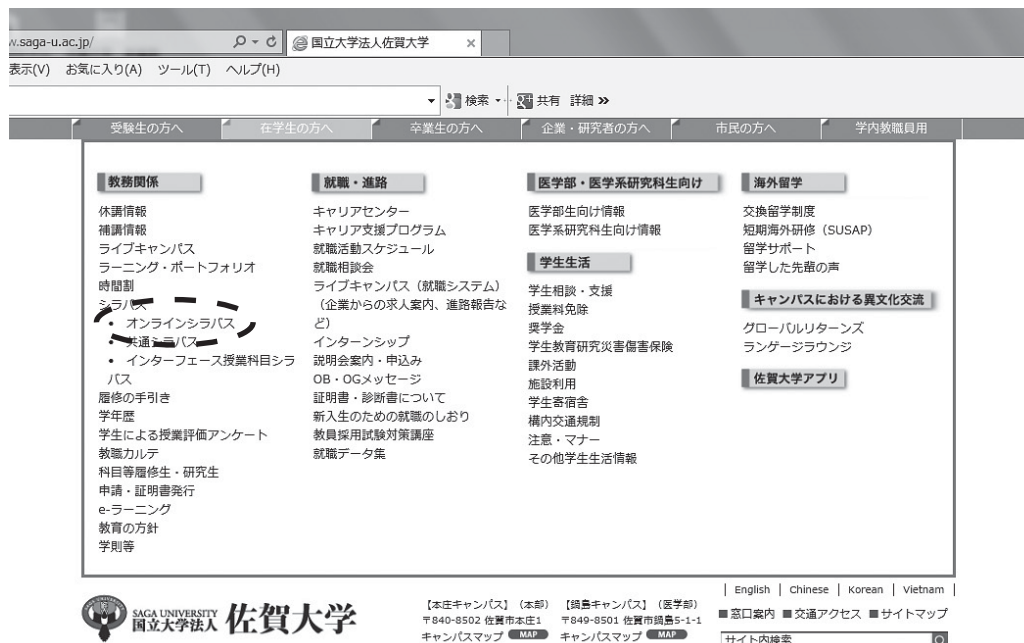
全学教育機構開設科目は、000です。

※2 Live Campus とは

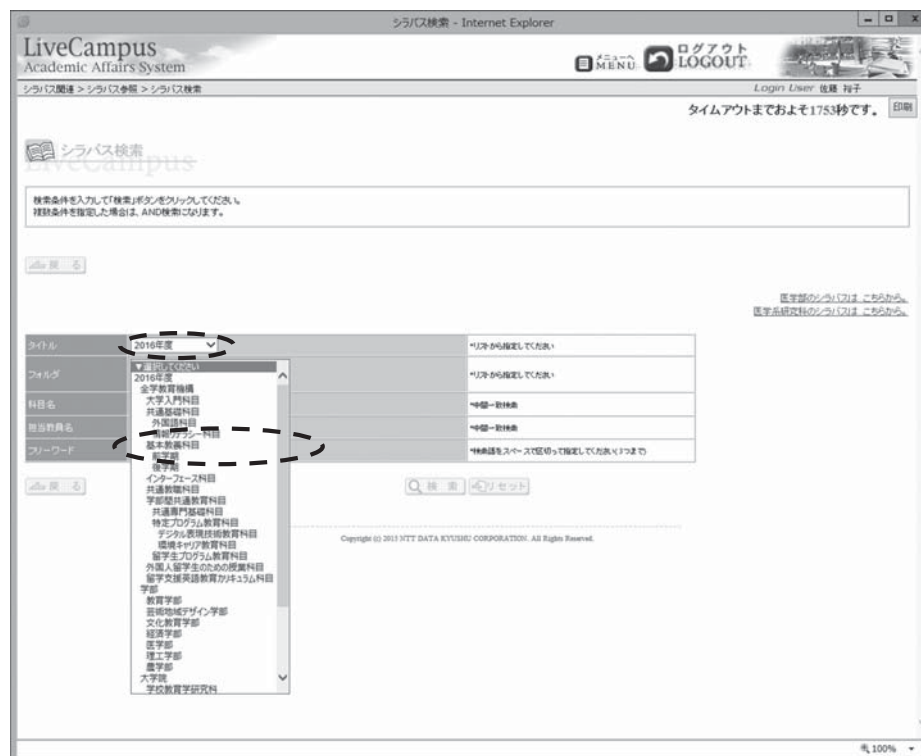
本学の学生関係システムの通称です。Live Campus の利用方法は、入学後1回目の情報リテラシー科目等の授業で説明されます。

なお、Live Campus では、シラバスを検索して参照したり、履修登録を行うほか、各自の履修登録状況を表示した時間割、成績状況（単位の取得状況）、授業に関する連絡などが参照できます。

オンラインシラバス参照方法



佐賀大学 HP (<http://www.saga-u.ac.jp/>) へアクセスし、「在学の方へ」→「シラバス」→「オンラインシラバス」をクリックします。



シラバス検索画面が表示されますので、「タイトル」で2018年度を選び、フォルダのプルダウンボックスから、参照したい科目区分（例えば、基本教養科目＞前学期）にカーソルをあわせ、「検索」ボタンを押してください。（科目名や担当教員名を入れなくても、選択した科目区分のシラバス一覧が表示されます。）

シラバス一覧 - Internet Explorer

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

戻る 印刷/印刷

医学部/工学部/理学部 はこちら。
医学系研究科のシラバスはこちら。

学年/学期	科目名	科目コード	担当教員	単位数	講義科目	曜日・時	履修条件
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1311001	基礎物理の世界	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1311002	応用物理の世界	1	前期	水2	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1311003	物理の世界I	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1311007	化学の世界B	1	前期	水2	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1311010	実験化学I	1	前期	水2	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1311012	実験生物学	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312001	Breakthroughs in the Modern Age	1	前期	水2	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312002	The Natural World	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312002	The Natural World	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312003	情報科学の世界I	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312003	情報科学の世界I	1	前期	水2	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312004	情報科学の世界II	1	前期	水2	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312006	機械工学の世界B	1	前期	水2	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312007	電気電子工学の世界A	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312009	環境科学I	1	前期	時間外	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312012	資源環境論I	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312014	地球の環境-西・中・海を繋ぐ環境と暮らし	1	前期	時間外	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312017	21世紀のエネルギーと環境問題	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1312019	都市と生活	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1313002	生物科学の世界B	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1313008	生命科学の基礎B	1	前期	水1	確定済
2016年度	全学教育振興-基幹教育科目-前期	O1313009	生命科学の基礎C	1	前期	水1	確定済

100%

参照したい科目名の右の「和」をクリックで和文、または「E」で英文のシラバスが表示されます。

シラバス参照 - Internet Explorer

シラバス参照
liveCampus

2016年度「2016年度」フォルダ「全学教育振興-基幹教育科目-前期」
シラバスの詳細が以下となります。

[戻る](#)

[印刷/印刷](#)

[印刷/印刷](#)

医学部のシラバスはこちら。
医学系研究科のシラバスはこちら。

年度	2016	開講時期	前期																																													
コースナンバー	1-410600																																															
科目コード	O1311001																																															
科目名	基礎物理の世界																																															
担当教員(所属)	榎本 隆(工学系研究科)																																															
単位数	1																																															
曜日・時	水1																																															
学点番号	1-4111-01																																															
講義形式	講義を行う。																																															
講義概要	高校で学んだ単分積分の基礎を復習することから始めて、正三角関数や逆三角関数、対数関数の導出、極限を学習することによって単分積分の基礎知識と計算力を身につける。																																															
開講年度	単分積分の基礎知識と計算方法を習得することを目指す。																																															
到達目標	様々な関数の導出と積分の計算を習得し、さらにそれを用いて面積・体積の計算方法を理解する。																																															
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th><th>授業以外の学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>連続関数</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>2</td><td>三角関数と逆三角関数</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>3</td><td>微分法の計算</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>4</td><td>積分の定義</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>5</td><td>積分の公式</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>6</td><td>積分の計算</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>7</td><td>ロルの定理、平均値の定理</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>8</td><td>コーシーの平均値の定理、ロビットの定理</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>9</td><td>極値</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>10</td><td>不定積分</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>11</td><td>部分積分、置換積分</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>12</td><td>有理関数の不定積分</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>13</td><td>定積分</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> <tr><td>14</td><td>面積</td><td>前回の授業の内容について、自宅で復習すること。</td></tr> </tbody> </table>	回	内容	授業以外の学習	1	連続関数	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	2	三角関数と逆三角関数	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	3	微分法の計算	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	4	積分の定義	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	5	積分の公式	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	6	積分の計算	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	7	ロルの定理、平均値の定理	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	8	コーシーの平均値の定理、ロビットの定理	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	9	極値	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	10	不定積分	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	11	部分積分、置換積分	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	12	有理関数の不定積分	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	13	定積分	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。	14	面積	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。		
回	内容	授業以外の学習																																														
1	連続関数	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
2	三角関数と逆三角関数	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
3	微分法の計算	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
4	積分の定義	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
5	積分の公式	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
6	積分の計算	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
7	ロルの定理、平均値の定理	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
8	コーシーの平均値の定理、ロビットの定理	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
9	極値	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
10	不定積分	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
11	部分積分、置換積分	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
12	有理関数の不定積分	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
13	定積分	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														
14	面積	前回の授業の内容について、自宅で復習すること。																																														

100%

1-4 履修登録

授業科目を履修し単位を修得するためには、履修する学期の初めの一定期間内に「履修登録」をする必要があります。**履修登録をしていない授業科目は、試験を受けても、原則として単位が認められず、履修が無効となります。**履修登録は、皆さん自らが、学内外のパソコンから Live Campus を通して行います。大学の授業は、学生自身が、履修しなければならない授業科目を調べ、履修したい授業科目を選択し、そして自らの責任で履修登録を行わなければなりません。

1-5 大学からの連絡と掲示板

大学からの授業連絡及び休講・補講の連絡は、Live Campus を通して皆さんのパソコン・スマートフォン等へメールで届きます。もし、Live Campus からのメールが届かない場合は、すぐに学生センター内教務情報管理窓口まで相談に来てください。しかし、全ての情報が Live Campus から得られる訳ではありません。履修関係のほか、試験・成績などに関する重要な連絡は、原則として掲示板により行います。また、教員からの呼び出しや連絡事項が張り出されることもあります。

本庄キャンパスの教養教育大講義室前の広場には教務関係掲示板が、鍋島キャンパスには医学部学務掲示板が設置されています。「大学に行ったら、まず掲示板を見る」という習慣を身につけてください。

1-6 出席管理システムと講義自動収録配信システム

(1) 出席管理システム

教養教育1号館・同2号館をはじめ教養教育科目を実施する教室を中心に、50以上の教室でICカード(学生証)読取端末を設置しています。**カードリーダー設置教室で授業が行われる場合は、学生証を必ずかざしてください。**また、各科目の出席情報取得期間は、**授業開始10分前から終了時刻まで**となっています。学生証をかざした記録は、自分でも学内外から確認できます。なお、学生証をかざした記録が少ない場合、チュータや学生生活課より問合せを行うことがありますので、不要な問合せを受けることがないように、学生証は常時携帯し、授業開始前にはカードリーダーにかざすよう習慣づけてください。

ICカードリーダー設置教室一覧

建物			教室
本庄	教養教育	1 号館	111、121、122、123、124、125、126、127、128、129、131、132、133、134、135、141、142、143、144、145
		2 号館	2101、2103 AL、2104 AL、2108 AL、2109 AL、2110 AL、2201、2202 AL、2203 AL、2204 AL、2209 LM、2301、2318 LM
		大講義棟	大講義室
	教育	1 号館	104
	経済	4 号館	第 4、第 5
	理工	大学院棟	101、102、201、202、203、204、301、302、303、401
	農学		大講義室
		1 号館	第 1、第 2、第 3、第 5
	総合情報基盤センター		大演習室、中演習室、小演習室

鍋島	医	臨床講堂	臨床大講堂、臨床小講堂 1、臨床小講堂 2
		講義棟	コンピューター実習室
		看護学科棟	第 2、第 4

(2) 講義自動収録配信システム

教養教育 1 号館・同 2 号館をはじめ教養教育科目を実施する教室を中心に、30以上の教室で講義の模様を自動で収録するシステムを設置しています。履修登録者は、授業担当教員が翌日以降ネット配信した場合、学内外から視聴することができます。復習等の自学自習に活用してください。

自動収録装置設置教室一覧

建物			教室
本庄	教養教育	1 号館	111、121、122、123、124、125、129、131、132、133、134、135、141、142、143、144、145
		2 号館	2101、2103 AL、2104 AL、2109 AL、2110 AL、2201、2202 AL、2203 AL、2204 AL、2301
		大講義棟	大講義室
	農学		大講義室
		1 号館	第 1、第 2、第 3、第 5
鍋島	医	臨床講堂	臨床大講堂、臨床小講堂 1、臨床小講堂 2
		看護学科棟	第 2、第 4

(3) 出席管理システム及び講義自動収録配信システムの利用

出席管理システム及び講義自動収録配信システムは、ライブキャンパスポータルからアクセスすることができます。



2 佐賀大学の教育課程

2-1 佐賀大学の教育目的

本学は教育の目的を、「国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成する」（佐賀大学学則第2条）、と定めています。本学は皆さんを、世界を見据え、豊かな教養と深い専門知識を身につけ、こうした知識をもって社会を生き抜く人間となるように教育します。本学が皆さんに望むのは、社会を生きる力を身につけてもらうことです。大学を出た後も、生涯学び続ける力です。

皆さんはそれぞれ、学びたい分野を定めて学部・学科・課程を選択し、本学に入学しました。これから皆さんは、それぞれの学部の学科や課程の専門教育課程で、高度な専門知識・技術・技能を身につけていきます。しかし、こうした高度な知識・技術・技能も、使い方が悪ければ、必ずしも社会の役に立つとは限りません。知識・技術・技能を用いるのは人間です。これらの知識・技術・技能をどこに、どのように使うのか、このことは殊に複雑な現代社会にとっては大きな問題です。知識や技術や技能が高度になればなるほど、それを用いる豊かな人間性がますます求められます。本学が「豊かな教養」を重視する理由がここにあります。

2-2 佐賀大学学士力

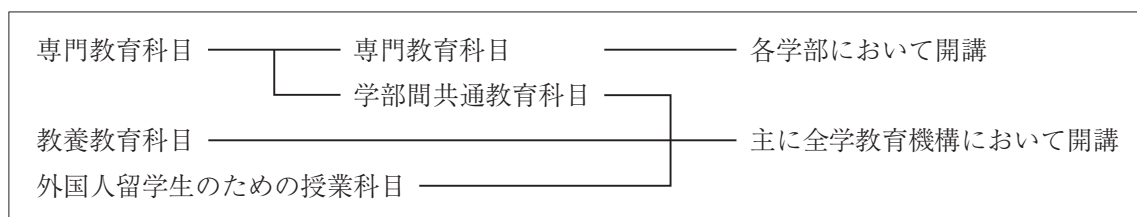
皆さんは卒業までに、大学で学んだと言えだけの、高いさまざまな能力を身につけなければなりません。本学では、各学部が定めた教育課程（これを学士課程といいます。卒業するときには学士の学位が与えられます。）で学ぶ皆さんが卒業までに身につける能力の目標を「佐賀大学学士力」として定めています。「佐賀大学学士力」は、体系的で順次的な構造を持っています。皆さんは、まず、学士課程で学ぶための「基礎的な能力」を身につけ、その上で現代社会や専門分野で「課題を発見し・解決する能力」を身につけ、そして最後に「個人と社会の持続的な発展を支える力」を身につけます。各学部の学士課程は、こうした「佐賀大学学士力」の付与を目標として、共通した教養分野の教育とそれぞれ独自の専門分野の教育により、学部・学科・課程の教育課程を編成しています。佐賀大学学士力については、次の頁を見てください。

2-3 教養教育と全学教育機構

冒頭で述べたように、本学が開講する専門教育科目と教養教育科目のうち、専門教育科目は、主に各学部において開講されます。学部が開講する専門教育科目については、それぞれの学部で詳しく説明します。

教養教育科目は全学教育機構が担います。全学教育機構の目的は「本学の共通教育、国際教育及び高等教育開発並びに本学の教育における情報通信技術の活用支援を総合的に行うことにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の質保証に資する」ことです。全学教育機構は教養教育科目だけでなく、学部の枠を超えた専門教育科目や外国人留学生のための科目も開講します。以下では、全学教育機構が開講する科目について説明します。

佐賀大学の教育課程



佐賀大学 学士力

1. 基礎的な知識と技能

(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能

様々な学問分野（自然、文化、社会）における基本概念や思考方法を理解し、現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。

(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能

- ① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解し、自らの意思を表現し、他者の理解を得ることができる。
- ② 英語を用いて知識を修得し、グローバル社会に向けて自らの考えを発信することができる。
- ③ 情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理することができる。

(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能

専門分野について、基本概念や原理を理解して説明することができ、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析することができる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の知識と技法を応用することができる。

(3) 課題発見につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動ができ、また、他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために、自己と同時に他者の立場に立つて物事を考えることができ、また自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力

地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観によって社会生活で守るべき規範を遵守することができ、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

3 教養教育科目

3-1 教育科目の編成

本学の教養教育は、皆さんが、社会の一員として必要な教養を身につけ、自ら高い市民性を涵養することを教育理念としています。このような教育理念を実現するために、全学教育機構は、各学部と協議して教養教育科目を編成し、全学教育機構（一部は各学部）において実施します。教養教育科目は、次のような内容の科目によって構成されます。また、各科目に含まれる授業科目については、次頁の佐賀大学学士力と教養教育科目の表に示しています。これらの科目の概要については、P27以降で詳しく説明します。

科 目	内 容
大学入門科目	高等学校と大学との教育の接続を図ります。
共通基礎科目	英語活用能力や、情報リテラシー能力の向上により、高度技術社会のなかで求められる知識や技能の修得を図ります。
基本教養科目	市民社会の諸相を「自然科学・技術」「文化」「社会」の視点から学びます。
インターフェース科目	大学で学んだことと社会とを接続し、個人と社会の持続的発展を支える力を育成します。
共通教職科目	教育職員免許状を取得する学生のための科目です。教育職員として必要な基本的知識・技能を幅広く学びます。

3-2 佐賀大学学士力と教養教育科目

佐賀大学学士力については先に述べましたが、教養教育科目の各授業科目はそれぞれ、佐賀大学学士力の項目と対応しています。どの授業科目が佐賀大学学士力のどの項目に対応しているかは、下の佐賀大学学士力と教養教育科目の表を見てください。皆さんが授業科目を履修する際には、その授業科目がどのような能力を身に付けるためのものであるかを十分に意識し、これを念頭に授業に臨むことが重要です。

佐賀大学学士力と教養教育科目（H28. 4. 1～）

科 目 <	
--	--

3-3 卒業に必要な教養教育科目の単位数

皆さんが学士課程を終えて卒業するために必要な教養教育科目の単位数は、各学部の学科や課程ごとに定められています。卒業に必要な教養教育科目の単位数は、次の表の通りです。自分の学科や課程では、どの授業科目が何単位必要なのかを確認して、履修計画を立てることが必要です。

卒業に必要な教養教育科目の単位数

科 目 学部・学科・課程・コース		教 養 教 育 科 目												
		大学入門科目		共通基礎科目				基本教養科目			インターフェース科目	共通教職科目		合計
				外国語科目	情報リテラシー科目			自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野		体育実技Ⅰ	体育実技Ⅱ	
					英語	講義	演習							
教育学部	学校教育課程	2		4	2	1		8			8	1	1	27
芸術地域デザイン学部	芸術表現コース	2		4	2			12			8	1	1	30
	地域デザインコース	2		4	2			16			8			32
経済学部	経済学科	2		4	2			14			8			30
	経営学科	2		4	2			14			8			30
	経済法学科	2		4	2			14			8			30
医学部	医学科	4		4	2	1		14			8			33
	看護学科	2		4	2			14			8			30
理工学部	数理科学科	2	2	4				18			8			34
	物理科学科	2	2	4				18			8			34
	知能情報システム学科	2	2	4	2	1		4	8	8			31	
	機能物質化学科	2	2	4		1	1		14	8			32	
	機械システム工学科	2	2	4		1	1		10	8			28	
	電気電子工学科	2	2	4	2	1		16			8			35
	都市工学科	2	2	4	2	1		12			8			31
農学部	応用生物科学科	2		4	2	1		20			8			37
	生物環境科学科	2		4	2	1		20			8			37
	生命機能科学科	2		4	2	1		20			8			37

また、各学部は、学科・課程ごとに、教養教育科目をどのように履修しなければならないか、という履修の方法を定めています。詳細は各学部の「履修細則」などをよく読み、間違いがないかを確認しながら、履修するようにしてください。

基本教養科目の履修方法等

学 部	学科・課程・コース	履修方法
教 育 学 部	学校教育課程	日本国憲法を含み、各分野から2単位以上、計8単位以上を履修する。
芸 術 地 域 デザイン学部	芸術表現コース	各分野から2単位以上、計12単位以上を履修する。
	地域デザインコース	各分野から2単位以上、文化の分野から「言語と文化Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）及び現代社会の分野の「情報メディアと倫理」2単位を含み、計16単位以上を履修する。
経 済 学 部	経済学科	各分野から4単位以上、計14単位以上を履修する。
	経営学科	各分野から4単位以上、計14単位以上を履修する。
	経済法学科	各分野から4単位以上、計14単位以上を履修する。
医 学 部	医学科	各分野から2単位以上、計14単位以上を履修する。
	看護学科	各分野から2単位以上、計14単位以上を履修する。
理 工 学 部	数理科学科	各分野から2単位以上、計18単位以上を履修する。
	物理科学科	各分野から2単位以上、計18単位以上を履修する。
	知能情報システム学科	「自然科学と技術の分野」から4単位以上、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から8単位以上、計12単位以上を履修する。 外国人留学生は、修得した「日本事情（自然科学と技術）」の単位を自然科学と技術の分野に、「日本事情（文化）」及び「日本事情（現代社会）」の単位を「文化の分野」又は「現代社会の分野」の単位にそれぞれ算入することができる。
	機能物質化学科	「文化の分野」及び「現代社会の分野」の各分野から2単位以上、両分野併せて計14単位以上を履修する。 外国人留学生は、当該14単位以上のうちに、「日本事情（文化）」及び「日本事情（現代社会）」の単位を算入することができる。
	機械システム工学科	「文化の分野」及び「現代社会の分野」の各分野から2単位以上、両分野併せて計10単位以上を履修する。 外国人留学生の「日本事情」の単位は、分野にかかわらず、算入することができない。
	電気電子工学科	「文化の分野」及び「現代社会の分野」から12単位以上、計16単位以上を履修する。 外国人留学生は、当該12単位以上（編入学生について6単位以上）のうちに、「日本事情（文化）」及び「日本事情（現代社会）」の単位を算入することができる。
	都市工学科	計12単位以上を履修する。
農 学 部	応用生物科学科	各分野から2単位以上、計20単位以上を履修する。
	生物環境科学科	各分野から2単位以上、計20単位以上を履修する。
	生命機能科学科	各分野から2単位以上、計20単位以上を履修する。

3-4 教養教育の学年進行

皆さんは、所属する学科・課程が定めた卒業に必要な教養教育の単位を修得しなければなりません。しかし、むやみにどの授業科目からでも履修を始めてよい、というわけではありません。教養教育の教育科目も専門教育と同様に、体系的・順次的に作られていますので、それぞれの授業科目は、必要な学修の段階を追って履修しなければなりません。

下の表は、教養教育科目の標準的な履修モデルです。履修計画は、自分の学科・課程での卒業に必要な授業科目及び単位数を確認し、この履修モデルを例にして、立ててください。

全学教育機構教養教育科目の標準的な履修モデル

									医学部医学科	
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	5 年次	6 年次
		前	後	前	後	前	後			
大学入門科目		2	2							
外国語科目	英語	1	1	1	1					
情報リテラシー 科目	情報基礎概論	2								
	情報基礎演習	1								
基本教養科目		8 ※		6 ※						
インターフェース科目				2	2	2	2			

※P12の表にある基本教養科目の単位数を見て、1年次：2年次＝6：4の割合で換算してください。

3-5 教育職員免許状取得の要件となる授業科目

本学では、多くの学部で様々な教育職員免許状が取得できます。教育職員免許状を取得する場合には、専門教育科目以外にも、教育職員免許法施行規則の第66条の6において、「日本国憲法」、「外国語コミュニケーション」、「体育」及び「情報機器の操作」の修得が義務づけられています。本学ではこれらの授業科目の多くを全学教育機構で開講していますが、教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」については基本教養科目・現代社会の分野の「日本国憲法」2単位を、「外国語コミュニケーション」については共通基礎科目の外国語科目（「アカデミック・ジャパニーズ」は除きます。）から2単位を、「体育」については共通教職科目の「体育実技」の2単位を修得しなければなりません。ただし、「情報機器の操作」については各学部・学科・課程で必要な科目・単位が異なりますので、各学部の履修細則で確認してください。

4 教養教育科目の履修方法

以下では、教養教育科目の授業科目の履修方法について説明します。

4-1 大学入門科目（関連ページ P28、P48）

大学入門科目は、二つの授業科目に分かれています。一つは、新入生に必要とされる学習及び生活上のガイダンスや、各学部の特性に応じた導入教育などを内容とする「大学入門科目Ⅰ」です。もう一つは、各学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力またはデザイン力を養うことを内容とする「大学入門科目Ⅱ」です。大学入門科目は、教養教育科目ですが、各学部が各学部の教育方針に沿って開講します。学科や課程によっては、「大学入門科目Ⅰ」を前学期と後学期を通じて開講する場合や、また「大学入門科目Ⅱ」を開講しない場合がありますので、注意してください。

4-2 共通基礎科目

共通基礎科目は、「外国語科目」、「情報リテラシー科目」に分かれますが、「外国語科目」は「英語」と、「日本語」からなります。また「情報リテラシー科目」は「情報基礎概論」と「情報基礎演習」からなっています。

4-2-1 外国語科目

a) 英語（関連ページ P21、P25、P29～30、P49～52）

英語は、「英語を用いて、専門分野の知識を修得し、自己の考えを発信できる」力の修得を目標とし、1年次の前学期に「英語A」を、後学期に「英語B」を、2年次の前学期に「英語C」を、後学期に「英語D」を開講します。ただし医学部の学生には、1年次の前学期に「英語A」及び「英語B」を、後学期に「英語C」及び「英語D」を開講します。（P29参照）英語の授業では、それぞれの学部（一部は学科）ごとに、受講するクラスが指定されますので、指定されたクラスにおいて受講しなければなりません。「英語B」、「英語C」、「英語D」では、1年次の前学期に実施する TOEIC IP の成績によって習熟度別クラスを編成します。（ただし医学部では、入学直後に行われるクラス分けテストの成績によって、「英語A」、「英語B」、「英語C」、「英語D」の授業で習熟度別クラスを編成します。）まず、自分が受講するクラスを確認しましょう。

なお、後に述べる「留学支援英語教育カリキュラム」の履修を認められた学生は、カリキュラムが指定する時間の英語の授業科目を履修します。

b) 日本語（関連ページ P26、P43、P50）

日本語は、外国人留学生（本学一般入試で合格し、入学した者は除く）を対象とし、日本語を用いて、専門分野の知識を修得し、自己の考えを発信できる力の修得を目標とします。日本語は「アカデミック・ジャパニーズA（以下、A）」、「アカデミック・ジャパニーズB（以下、B）」、「アカデミック・ジャパニーズC（以下、C）」、「アカデミック・ジャパニーズD（以下、D）」からなります。AとBは前学期に、CとDは後学期に開講されます。AとCは読むことを中心にグループディスカッションやピアワークなどを行います。BとDでは簡単な調査を行い、その上でBでは発表に必要な言語技術を、Dではレポートの書き方を学びます。必要に応じ各学期の最初に行うプレースメントテストによって、日本語の能力に応じたクラスを編成します。掲示に注意してプレースメントテストを受けてください。

c) 外国語科目を履修する際のその他の注意事項

① 外国人留学生の外国語科目履修についての特例（一般入試で合格し、入学した外国人留学生を除く）

外国人留学生は、母語以外の外国語科目（英語、日本語）を、2科目または1科目選択して履修することができます。つまり、1科目を修得する必要がある場合には、英語に代えて日本語のアカデミック・ジャパニーズで修得することができます。

② 英語能力・技能検定試験の単位認定

英語能力・技能検定試験を受験し一定の成績をおさめれば、その成績結果を、英語の単位として認定することがあります。認定する英語能力・技能検定試験、及びそれぞれの検定試験成績の認定基準、認定科目、認定単位数、及び評価については、下の表を見てください。これらの検定試験で認定基準となる成績を取得し、認定を希望する場合には、原則として、学期始めの指定された期間内に、申請書及び合格を証明する書類を、教養教育教務に提出してください。

ただし、次の点に注意してください。

- (a) すでに修得した単位がある場合には、卒業に必要な単位数に不足している単位数までが認定されます。（英語で、すでに3単位を修得している場合には、英検で1級を取得し2単位の認定を申請しても、認定されるのは1単位です。）
- (b) 複数の能力・技能検定試験で同一レベルの成績を取得している場合には、1種類の成績だけが認定の対象となります。

英語

認定基準、認定科目、認定単位数、及び評価

能力・技能検定試験と認定基準				認定科目	認定単位数	評価
TOEFL ITP	TOEFL IBT	TOEIC (TOEIC IPを含む)	英検			
520-560	68-83	640-760	準1級	英語B	1単位	認定
561以上	84以上	765以上	1級	英語C	2単位まで	

③ TOEIC IP を利用した全学統一英語能力テストの実施

本学では、英語学習について明確な学習目標を与えることで、学生の皆さんの自律的かつ持続的学習を促すとともに、入学後の英語力の推移を測定・検証し、本学の英語教育の改善と大学全体としての英語力の向上を図るため、平成25年度の入学生から、次のとおり TOEIC IP テストの受験を義務化しています。なお、実施日時、実施場所等の詳細については、学年暦や通知等で別途周知します。

○教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部及び農学部の学生

1年次の前学期（6月～7月）に受験し、その結果を1年次後学期に開講する英語B及び2年次に開講する英語C・英語Dのクラス分けに利用します。また、2年次の後学期（12月～1月）の受験結果については、英語Dの成績評価の一部（30％）として利用します。（P30参照）

○医学部の学生

1年次の前学期（6月～7月）に受験し、その結果を英語Bの成績評価の一部（30％）として利用します。また、1年次の後学期（12月～1月）の受験結果については、英語Dの成績評価の一部（30％）として利用します。

4-2-2 情報リテラシー科目（関連ページ P26、P31）

情報リテラシー科目は、「情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理する」力の修得を目標とする「情報基礎概論」と、「情報及び情報を処理する技術」の修得を目標とする「情報基礎演習」とによって構成されます。「情報基礎概論」は講義科目（2単位）、「情報基礎演習」は演習科目（1単位）です。「情報基礎演習」は、「情報基礎演習Ⅰ」と「情報基礎演習Ⅱ」とに分かれます。「情報基礎概論」、「情報基礎演習Ⅰ」及び「情報基礎演習Ⅱ」は、各学部・学科・課程が必要に応じて開講しますので、所属する学科・課程が履修を要するかどうかを「履修細則」などで確認してください。

4-3 基本教養科目（関連ページ P32～35、P54～56）

4-3-1 基本教養科目の教育目標・目的・内容

基本教養科目は、「世界を認識するための幅広い知識」や「健全な社会や健康的な生活に関する知識」を修得し、高い市民性を培うことを教育目標とします。基本教養科目は、原則として1年次及び2年次に履修します。各学部の「履修の手引き」などに記載されている「履修細則」や、各学部・学科・課程が定める卒業に必要な単位数（P12参照）と履修方法（P13参照）に従って、「自然科学と技術の分野」、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から選択して履修してください。各分野の授業科目の目的と内容は、次のとおりです。

分野	授業科目の目的と内容
自然科学と技術	自然を科学的な目で認識し、主体的な判断に基づき行動する素養を身につけることを目的とし、科学・技術の基本的な概念・科学的思考方法・科学的認識の歴史などや、現代社会における科学・技術の役割と限界などを内容とする。
文化	文化の捉え方・文化の違いや歴史的変遷などの理解によって文化という観点から世界を認識し、その下に行動する素養を身につけることを目的とし、文学と芸術、言語と表現、歴史と文化などを内容とする。
現代社会	現代社会の現状を捉え、健全な社会と生活の質の向上に向けて、主体的に関わり、役立てていく素養を身につけることを目的とし、基礎社会科学や教育と人間、現代社会の構造などを内容とする。

4-3-2 授業科目の選択

授業科目は、「開講科目一覧」（P47以下を参照してください。）と時間割を確認して、選択してください。各分野の「区分」は、授業科目を便宜的に整理したものですので、どの区分から選択しても構いません。ただし、授業科目の内容によっては、受講できない学科や課程、または学年が指定されている授業科目がありますので、選択する際には、シラバスをよく読んで確認してください。また、後にも述べる「留学支援英語教育カリキュラム」及び「全学共通の教育プログラム」の履修を認められた学生は、それぞれのカリキュラム、プログラムが指定する授業科目を優先して選択し、その上で、卒業に必要な基本教養科目の単位数を満たすために必要な授業科目を選択してください。履修する順序は、特に指定がなければどの授業科目が先でも構いません。

4-3-3 授業科目の履修登録と抽選

履修を希望する基本教養科目の授業科目は、学期ごとに指定された期間内に履修登録をしなければなりませんが、各授業科目の履修希望者が150人を超えた場合や、使用する教室の収容可能な人数を超えた場合、また授業を効果的に行うために必要な人数の制限を超えた場合には、抽選を行って履修者を決定します。もし、抽選に漏れた場合には、人数に余裕のある別の授業科目への履修登録を行うことができますので、履修

者決定についての掲示に注意しておいてください。

4-3-4 総合科目

基本教養科目には、総合科目として「海外交流実習」及び「キャリア教育科目群」を設けています。

なお、総合科目の履修により習得した単位は、4単位を上限として基本教養科目の各分野のいずれかの単位として含めることができます。

(1) 海外交流実習

海外交流実習は、大学が定めた海外での様々な学習活動プログラムに基づいて行われる授業です。この授業科目の履修は本学の基本教養科目の履修として認定され、各分野いずれかの単位数に含めることができます。授業計画がまとめ次第、履修希望者を募りますので、掲示に注意しておいてください。(海外交流実習で取得できる単位は2単位を上限とする)

(2) キャリア教育科目群

キャリア教育科目群は、自らの興味や適性を理解し、さらに企業や社会の仕組み、多様な働き方を知ることと、将来のキャリアビジョンを明確化していくことを目的としており、4つの科目を開講します。

「キャリアデザイン」及び「佐賀版キャリアデザイン」は、第一線で活躍する社会人を講師に迎え、多様な働き方を学ぶことができます。また就職活動や卒業後のキャリアデザインに必要な知識を学びます。「グループワークの技法と実践」では、企業や団体等の採用選考にも用いられることが多いグループワークの技法を学び、それらを実践することでコミュニケーション力やファシリテーション力を養成します。

「チャレンジ・インターンシップ」では、企業と協力し、Webサイトを改善する仕事やデータの可視化・分析等を通じて、「チームで仕事をするための基礎的な知識と能力」を育成します。

4-3-5 その他の注意事項

(1) 外国人留学生向けの授業科目：「日本事情」

外国人留学生は、基本教養科目として「日本事情」を履修することができます。「日本事情」は、「日本事情－自然科学と技術」、「日本事情－文化」、「日本事情－現代社会」からなりますが、「日本事情－自然科学と技術」は自然科学と技術の分野の、「日本事情－文化」は文化の分野の、「日本事情－現代社会」は現代社会の分野の授業科目です。ただし、学部・学科・課程によっては、これらの授業科目のうちで、卒業に必要な単位数に含めることができるものを限定している場合がありますので、履修する際には、この点を各学部の「履修細則」で確認してください。

(2) 他大学との単位互換制度

本学は、西九州大学や放送大学と単位互換協定を締結しているほか、佐賀県内の6大学・短大で構成する大学コンソーシアム佐賀に参加しており、これらの大学で履修した授業科目の単位を本学の卒業要件単位数として認定する制度を作っています。詳細については、下記を参照してください。

佐賀大学 HP 単位互換 <http://www.sc.admin/saga-u.ac.jp/tani.html>

大学コンソーシアム佐賀 HP <http://www.saga-cu.jp/>

4-4 インターフェース科目（関連ページ P36～41、P57～58）

4-4-1 インターフェース科目の目的

インターフェース科目は、「現代社会が抱える諸問題に目を向けて課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、社会に対応するための知識・技術・技能や社会を生きるための力を身に付けることにより、学士課程教育で得た知識・技能を社会において十分に活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ことを目標としています。すなわち、インターフェース科目は、専門の知識・技術・技能を身につけた皆さんが、そうした知識・技術・技能を社会に活かすための能力を培うための科目です。

4-4-2 インターフェース科目の構成

インターフェース科目は、関連する4つの授業科目からなる「インターフェースプログラム」と、プログラムの担当教員が必要に応じて開講する「インターフェース演習」とからなります。プログラムの授業科目は、インターフェースプログラム名にⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの番号が付されています。インターフェースプログラムの授業科目は、講義だけでなく、学生自らが主体的に参加する演習、調査、報告あるいは対話などを組み合わせ、「アクティブ・ラーニング」を志向します。

4-4-3 インターフェースプログラムの履修方法

インターフェースプログラムは、複数のプログラムから1つのプログラムを選択して登録します。登録したインターフェースプログラムでは、授業科目のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを、原則として順次履修します。インターフェース科目の履修は、原則として2年次以上ですが、留学支援英語教育カリキュラムや全学共通の教育プログラムの履修を認められた学生は、予め定められたプログラムを定められた方法によって履修します。インターフェースプログラムでは、関連した4つの授業科目（8単位）をすべて修得しなければなりません。

4-4-4 インターフェースプログラムの登録

インターフェースプログラムの登録を、履修登録とは区別して「プログラム登録」と呼びます。プログラム登録は、原則として、1年次の後学期の終わりまでに行わなければなりません。各インターフェースプログラムの内容、履修の申し込み期間、履修者決定方法等については掲示を出しますので、注意しておいてください。プログラム登録していないインターフェースプログラムの授業科目を履修することはできません。また、インターフェースプログラムの授業科目の履修には、プログラム登録とは別に、科目ごとの履修登録が必要です。2年次後学期以降に転入学、編入学、再入学した学生は、3年次の前学期にプログラム登録を行うことができます。

10月以降

プログラムの内容説明

掲示で詳細をお知らせ



プログラムの希望登録

プログラムは抽選により決定



3月末

インターフェース科目の履修登録

プログラム登録だけでは履修登録したことはありません。

4-4-5 インターフェース演習科目

「インターフェース演習」の授業科目は、インターフェースプログラムの教育内容をさらに深めるために、必要に応じて、インターフェースプログラムの担当教員が開講します。インターフェース演習の授業科目を開講する際には、掲示によって履修希望者を募ります。また、インターフェース演習の授業科目で修得した単位を、インターフェースプログラムの授業科目の単位として認めることがあります。詳しくは、プログラム担当の教員に相談してください。

4-5 共通教職科目（関連ページ P26、P42、P59）

体育実技Ⅰ及びⅡ

教育職員免許状の取得のためには、体育実技Ⅰ及びⅡ（各1単位）を両方修得する必要があります。また、教育学部及び芸術地域デザイン学部芸術表現コースの学生は卒業要件単位になっています。教育学部及び芸術地域デザイン学部芸術表現コースの学生や教育職員免許状の取得を予定している学生は指定された曜日校時の体育実技Ⅰ及びⅡを履修してください。履修登録するクラスは、1回目の授業でオリエンテーションを行い決めます。

・教育学部及び芸術地域デザイン学部芸術表現コース

月曜日 2校時

・それ以外の学生

木曜日 3・4校時

※ 共通教職科目の単位が卒業要件単位にはならない学部・学科があります。各学部・学科の卒業要件を確認してください。

※ 木曜日 3・4校時の体育実技Ⅰ及びⅡは、履修登録前に抽選を行います。学生センター内教養教育教務担当窓口で抽選の申込みを行ってください。

5 特定の教育プログラム

全学教育機構では、教養教育科目などを利用して、特定の教育目的をもった教育プログラムを実施しています。これらのプログラムは、教養教育の教育目的を果たしながら、同時に特定の教育目的を追求するものです。

5-1 留学支援英語教育カリキュラム (International Study Abroad Curriculum、^{アイザック}通称 ISAC)

国際化が進み、もの・人が活発に国境をこえている現代では、分野を問わず、国際的な知識と視野をもち、英語での情報の正確な受信と積極的な発信ができるコミュニケーション能力を兼ね備えたグローバルな人材が求められています。学問的に見ても、最新の情報は英語で飛び交っていて、どの専門分野に進もうとも、情報収集、さらには論文や学会等での発表には英語力は不可欠です。

本カリキュラムは、留学への意欲と一定の英語力を有する学生を対象に、主に英語を用いた指導体制と授業科目とによって教育を行うもので、選抜テストにより本カリキュラムの履修を認められた学生は、次頁の表に掲げる授業科目を履修する必要があります。本カリキュラムは英語留学試験 TOEFL ITP で、このコース全員が500点以上の取得を目指します。本カリキュラム修了者には、修了証を発行します。

ただし、表に掲げる授業科目は卒業に必要な教養教育科目の一部です。不足する授業科目については、各学部・学科・課程の卒業に必要な教養教育科目の単位数（P12）を参考に、漏れのないように履修してください。

当該分野の教育方法

- このカリキュラムの参加希望者に対して選抜テストを行い、3年間英語による授業を提供します。
- 授業のほとんどを英語のネイティブスピーカーが担当し、インタラクティブな授業により、英語の運用能力の向上を目指して、4技能をバランスよく鍛えます。
- 英語の言語学的な能力向上だけでなく、異文化理解や国際コミュニケーション能力の育成に必要な講義も、全て英語で行われます。
- Exposure to English（「英語にたくさん触れる」）を全ての授業で心がけ、実践的な対話、パワーポイント等による口頭発表、ディスカッションなどを取り入れた指導を行います。
- E-learning の英語教材、Graded Readers を使った多読訓練などの授業外課題により、英語力増強を図ります。
- 定期的に TOEFL 試験を受けることで英語力を測り、弱点を補強することで、更なる向上を目指せるように学習支援をします。
- 教育レベルを維持するために、クラス編成の見直しなども行ないます。
- 英語能力・技能検定試験の単位認定制度の利用は、原則として勧めていません。

【医学部以外】

留学支援英語教育カリキュラム授業科目及び単位数

科目区分	分野	授業科目	単位数	必修選択の別	備考
共通基礎科目		英語 A	1	必修	4 単位必修
		英語 B	1		
		英語 C	1		
		英語 D	1		
基本教養科目	自然科学と技術の分野	Breakthroughs in the Modern Age	2	選択必修	左記の基本教養科目から 8 単位選択必修（分野は問わない） 各学部・学科の規定履修方法に従い、基本教養科目の他の授業科目も履修する
		The Natural World	2		
		Sustainable Society	2		
	文化の分野	Critical Thinking for the Modern Age	2		
		Cultural Metaphors	2		
		Western Culture	2		
		Immersion Program	2		
	現代社会の分野	Citizenship Education	2		
		Introduction to Sociology	2		
		Life in the Global World	2		
インターフェース科目		Intercultural Communication I	2	必修	8 単位必修
		Intercultural Communication II	2		
		Intercultural Communication III	2		
		Intercultural Communication IV	2		

【医学部】

留学支援英語教育カリキュラム授業科目及び単位数

科目区分	分野	授業科目	単位数	必修選択の別	備考
共通基礎科目		英語 A	1	必修	4 単位必修
		英語 B	1		
		英語 C	1		
		英語 D	1		
基本教養科目	自然科学と技術の分野	The Natural World	2	必修	4 単位必修。学科の規定履修方法に従い、基本教養科目の他の授業科目も履修する
	文化の分野	Cultural Metaphors	2		
インターフェース科目		Intercultural Communication I	2	必修	8 単位必修
		Intercultural Communication II	2		
		Intercultural Communication III	2		
		Intercultural Communication IV	2		

6 学部間共通教育科目

全学教育機構は、学部に通ずる専門教育を行うために、「学部間共通教育科目」を設けています。「学部間共通教育科目」には、「共通専門基礎科目」、「特定プログラム教育科目」及び「留学生プログラム教育科目」があります。これらの科目は各学部の規定に従って、卒業に必要な専門教育科目の単位数に算入することができます。

6-1 共通専門基礎科目

共通専門基礎科目は、学部に通ずる、一般的で基礎的な専門科目です。共通専門基礎科目の各授業科目は、理工学部及び農学部の必修科目や選択科目となっています。これらの科目の履修については、各学部・学科の「履修細則」によって確認してください。共通専門基礎科目の履修により修得した単位を卒業に必要な専門教育科目として算入できる単位数は、次頁の表のとおりです。

共通専門基礎科目の履修により修得した単位を卒業に必要な単位数に算入できる単位数

学部	学科・課程	授業科目名	単位数	計
理 工 学 部	機能物質化学科	微分積分学基礎Ⅰ	2	10
		微分積分学基礎Ⅱ	2	
		線形代数学基礎Ⅰ	2	
		基礎力学	2	
		基礎電磁気学	2	
	電気電子工学科	基礎力学	2	2
農 学 部	応用生物科学科	基礎数学	2	2
	生物環境科学科	基礎数学	2	2
	生命機能科学科	基礎数学	2	2

6-2 特定プログラム教育科目

特定プログラム教育科目は、全学共通の教育プログラムが設定する授業科目の中で、学部間共通教育科目として開講される専門教育科目です。特定プログラム教育科目の授業科目の履修によって修得した単位は、次の表に示す範囲内で、各学部・学科・課程の卒業に必要な専門教育科目の単位数として算入することができます。

特定プログラム教育科目の履修により修得した単位を
卒業に必要な単位数に算入できる単位数の上限

学部	学科・課程	単位数		計
		特定プログラム 教育科目	留学生プログラム 教育科目	
教 育 学 部	学校教育課程	教育学部履修細則に定める自由選択科目の単位数の範囲内とする		
芸 術 地 域 デザイン学部	芸術表現コース	8		8
	地域デザインコース	8		8
経 済 学 部	経済学科			
	経営学科			
	経済法学科			
医 学 部	医学科	2		2
	看護学科			
理 工 学 部	数理科学科	2		2
	物理科学科	6		6
	知能情報システム学科			
	機能物質化学科			
	機械システム工学科			
	電気電子工学科			
	都市工学科	8		8
農 学 部	応用生物科学科	8		8
	生物環境科学科	8		8
	生命機能科学科	8		8

7 試験と再履修

7-1 定期試験

全学教育機構の各授業科目を履修した場合には、試験やレポートなどによって成績が判定され、合格者には所定の単位が与えられます。各授業科目の成績評価の方法については、それぞれの授業科目のシラバスに記載されています。試験は、原則として各学期の終わりに一定の試験期間を公示して行われます。これを定期試験といいます。これ以外にも、授業中に小テストなどが実施される場合があります。

定期試験において不正行為を行ったときは、その定期試験期間中に受験したすべての試験科目の成績は、所定の手続きを経て無効（失格）になります。

7-2 追試験

病気などやむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった場合、所定の追試験願を提出して認められた学生には、追試験が実施されます。やむを得ない理由とは、天災、事故、病気、肉親の死亡（二親等以内）、大学院受験、就職試験（日時を指定された会社訪問や説明会を含みます。）です。追試験を希望する場合には、願書に欠席の理由を証明する書類を添えて、公示された定期試験期間の最終日から7日以内に、教養教育教務に提出しなければなりません。ただし、就職試験等で事前に定期試験を受験できないことが明らかな場合には、事前に願書及び必要な書類を提出しなければなりません。

7-3 再試験

定期試験で不合格と判定された授業科目については、再試験が行われることがあります。ただし、外国語科目の英語については、再試験は行われません。

再試験が行われる授業科目は、成績開示日に、学生センター掲示板に発表されますので確認してください。再試験の受験を希望する場合には、発表の日から7日以内に、所定の再試験願を教養教育教務に提出しなければなりません。再試験に合格した場合の成績は、60点とします。

7-4 再履修と指定外履修

7-4-1 再履修

履修した授業科目に不合格の判定が下された場合、もしもその科目が卒業に必要な科目であれば、その科目を再履修しなければなりません。再履修は、不合格になったすべての科目について可能ですが、共通基礎科目の場合には、以下のとおり科目ごとに履修クラスが指定されています。

7-4-2 外国語科目の再履修

(1) 英語

英語の授業科目は英語A、英語B、英語C、英語Dからなりますので、翌年度以降、原則として不合格になった同じ授業科目を再履修クラスで受講することになります。例えば「英語B」が不合格になった場合には、「英語B」の再履修クラスとなります（ただし再履修クラスが開講されていない場合は、通常クラスで受講して下さい）。

(2) 日本語

日本語も同じ授業科目で再履修します。たとえば「アカデミック・ジャパニーズA」の再履修は「アカデミック・ジャパニーズA」で行いますが、再履修するクラスは、各学期の始めに行うプレースメントテストで決定されます。

7-4-3 情報リテラシー科目の再履修

情報リテラシー科目は、2年次以降に再履修ができます。再履修するクラスは、原則として、所属する学部・学科用のクラスとしますが、この指定クラスでの再履修が困難な場合には、指定クラスの教員及び希望するクラスの教員の許可が得られれば、希望するクラスで再履修することができます。

7-4-4 共通教職科目（体育実技Ⅰ・Ⅱ）の再履修

体育実技Ⅰ及びⅡは2年次以降に再履修することができます。原則として指定された曜日校時の体育実技Ⅰ及びⅡを受講してください。履修登録するクラスは1回目の授業でオリエンテーションを行い指示します。

- ・教育学部及び芸術地域デザイン学部芸術表現コースの学生

月曜日2校時目

- ・それ以外の学生

木曜日3・4校時目

※ 共通教職科目の単位が卒業要件単位にはならない学部・学科があります。各学部・学科の卒業要件を確認してください。

※ 木曜日3・4校時の体育実技Ⅰ及びⅡは、履修登録前に抽選を行います。学生センター内教養教育教務担当窓口で抽選の申込みを行ってください。

7-4-5 指定外履修

指定されたクラスでの再履修が、専門教育科目の必修科目等と重なり困難である場合には、申し出により、指定されたクラス以外での履修が許可されることがあります。これを「指定外履修」といいます。指定外履修を申請する場合には、指定外履修願を教養教育教務に提出し、許可を得なければなりません。

全学教育機構開講科目の概要

教養教育科目	
教 養 教 育 の レ ベ ル	●大学入門科目28
	●共通基礎科目
	・外国語科目
	英語29
	日本語（外国人留学生のための授業科目）43
	・情報リテラシー科目31
	●基本教養科目
	① 自然科学と技術の分野32
	② 文化の分野33
	③ 現代社会の分野34
	④ 総合科目35
	⑤ 日本事情（外国人留学生のための授業科目）44
	●インターフェース科目
	① 環境コース36
	② 文化と共生コース37
	③ 生活と科学コース38
	④ 人間と社会コース39
	⑤ 医療・福祉と社会コース40
	⑥ 地域・佐賀学コース41
	●共通教職科目
	体育実技Ⅰ・Ⅱ42
	●外国人留学生プログラムのための授業科目（外国人留学生のための授業科目）45
専門教育科目	
専 門 教 育 の レ ベ ル	●学部間共通教育科目
	・共通専門基礎科目46
	・特定プログラム教育科目
	・留学生プログラム教育科目 } ※ここでの説明はありません

履修に際し
ての留意点

佐賀大学の
教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育
プログラム

学部間共通
教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の
収容人数

大学入門科目

(1) 大学入門科目を学ぶ意味

大学は、様々な専門分野の研究を通じて文化を創造し次世代に継承する活動を行っており、高校までとは異なる能動的な学習態度が必要となります。また、社会に出た後も、知識基盤社会において重要な役割を果たすためには、持続的に学習する必要がある、それらの基礎を培わなければなりません。大学入門科目は、このような大学生としての学習態度や志向性を身に付けるために学ぶことになります。また議論を通じて、共同して課題を解決することを学びます。

(2) 教育目的と教育目標

本学に入学した学生に、大学における学習への転換を促し、高校から大学への接続を円滑にし、本学の新生入生として必要とされる知識やスキルを身に付けることを目的とします。更に、各学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力またはデザイン力を養うことを目的とします。具体的な目標は、各クラス毎に異なります。

(3) 授業科目

大学入門科目は、大学入門科目Ⅰと大学入門科目Ⅱから成ります。(P15参照)

(4) 教育方法

同じ学科や課程の学生によってクラスを編成し、各専門分野毎の特性に応じて、比較的少人数のクラスで授業を行います。講義だけでなく、討論や演習などを通じて、能動的な学習への転換を促します。

外国語科目 英 語

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室内の収容人数

(1) 英語を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現在、英語は国際的な場面でのコミュニケーションの手段として最も広く使用されています。国境を越えて人やものの交流が進んでいる今日、英語によるコミュニケーション能力は、国際社会へのパスポートとして、ますます重視されています。2年間（医学部では1年間）の英語学習を通じて、国際社会で活躍できるように、国際的な視野と英語コミュニケーション能力を育成します。

今日のように、最新の情報が英語で飛び交っている時代にあっても、どの専門分野であっても英語力が必要とされます。教養教育で培った英語力を土台にして、専門教育では、自らの専門分野に関して英語でコミュニケーションできるアカデミックな英語力を育成する必要があります。

(2) 教育目的と教育目標

<教育目的>

- ① 中学・高校の6年間で培った基礎学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指します。
- ② 異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指します。

<教育目標>

- ① 意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養います。
- ② 多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養います。

これらの目標は、佐賀大学学士力1（2）の「市民社会の一員として思考し活動するための技術」の育成に対応しています。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

教養教育の英語として、次の4つの授業科目が開講され、段階的に指導を行います。

- 「英語A」英語基礎（1年次前学期開講）
- 「英語B」異文化理解基礎（1年次後学期開講、医学部は1年次前学期開講）
- 「英語C」異文化理解発展（2年次前学期開講、医学部は1年次後学期開講）
- 「英語D」異文化理解応用（2年次後学期開講、医学部は1年次後学期開講）

さらに、将来、英語圏への海外留学を目指す学生に対しては、「留学支援英語教育カリキュラム」（通称ISAC）を開設しています。これは、選抜制による40名（医学部は10名）ほどのコースで、留学に必要な英語力や異文化理解能力が身に付くように、主にネイティブスピーカー教員による授業を提供します。

(4) 教育方法

- ① 「英語B」・「英語C」・「英語D」（医学部では「英語A」も含む）では習熟度別クラスを編成し、学生の学力に合ったレベルの授業を提供します。

- ② 教科書・補助教材・ICT 機器などを効果的に用い、英語の 4 技能をバランスよく高めます。
- ③ e-learning を使った教材や Graded Readers による読書課題などを活用し、できるだけ多く英語に触れる機会を与えるために、授業外の課題も豊富に提供できるように準備されています。
- ④ TOEIC・TOEFL・実用英語検定などの外部資格試験の受験を奨励し、取得したスコアや級によって、英語の単位として認定する制度もあります。
- ⑤ 1 年次前学期及び 2 年次後学期（医学部では 1 年次後学期）には全ての学生に TOEIC IP の受験を、さらに 1 年次前学期及び 1 年次後学期にはそれぞれプレースメントテスト及び到達度テストの受験を義務づけ、継続的な英語学習を促すとともに、大学入学以降の英語学習の進捗度及び英語能力の到達度を測ります。さらに「英語 D」（医学部では「英語 B」も含む）の評価の 30% 分は 2 年次後学期（医学部の場合は 1 年次前学期及び 1 年次後学期）の TOEIC IP スコアによって以下のように決定されます。

※評価の 30% 分として反映される点数の一覧表

TOEIC IP スコア	評価
245以下	0
250・255	5
260・265	6
270・275	7
280・285	8
290・295	9
300・305	10
310・315	11
320・325	12
330・335	13
340・345	14
350・355	15
360・365	16
370・375	17
380・385	18
390・395	19
400・405	20
410・415	21
420・425	22
430・435	23
440・445	24
450・455	25
460・465	26
470・475	27
480・485	28
490・495	29
500以上	30

情報リテラシー科目

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の人数

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代は情報化社会とも呼ばれ、情報技術が生活の様々な面で活用されています。携帯電話やスマートフォンなどは、若者のほぼ全てが保有しています。その利用は、電話としてよりも、メール、情報検索、またはSNS（ソーシャルネットワークサービス）利用などのオンライン情報へのアクセスへと重点が移動しています。更に、オンラインショッピングやオンラインバンキングのような電子決済の利用が日常となり、映像や音楽、ニュースなどの配信も、テレビやラジオ、CDやDVDといった媒体からインターネットへと移動しています。このように、市民の多くが個人の携帯情報端末を保有し、様々なオンライン情報の利用が日常となっていく傾向にあります。

また、大学で学習し、研究をするためにも、情報技術の活用が不可欠です。履修登録や成績確認といった学期毎の作業だけでなく、予習復習や資料検索もオンラインで行われます。また、就職活動においても、会社情報の収集から面接や試験の申込まで、情報技術の活用が不可欠となっています。もちろん、文書作成、統計処理、プログラミングなど、初年次教育から専門教育までの全ての教育内容そのものが、情報技術の利用を前提としています。

このように、社会生活及び大学生活を快適・効率的に行うためには、情報技術を適切に利活用しなければなりません。そのために、確かな知識と技術を習得しておく必要があります。さらに、様々な情報システム、特に社会で提供されているオンラインサービスを利活用するためには、それらの利点と課題を知り、自ら選択できる基礎を持つ必要があります。

情報に関しては、高等学校で教科「情報」を履修してきました。しかし、情報技術は日々進歩し、その重要性は増大しています。情報技術の現状と課題について、新しい情報をより正確に学ぶ必要があります。また、ソフトウェアの利用方法についても、大学の学習での利用に適切な内容を、ある部分は再学習することで確かなものとし、ある部分は新たに習得する必要があります。

(2) 教育目的と教育目標

情報技術は、我々の生活を便利にしてくれるものです。同時に、普及にともなって様々な負の側面も現れています。「情報リテラシー」科目は、現代の社会で生きていく上で不可欠な情報技術の基礎について学ぶとともに、情報化された社会とその仕組みについて、利点と課題について学びます。また、大学での専門教育及び卒業後に必要とされる情報に関する基礎技術を習得することを目的とします。

そのため、情報技術に関する基礎知識の習得と、社会で日常的に使われている様々なインターネット媒体の活用に関する利点と課題の把握を目標とします。特に、利用者としてのセキュリティ対策の基本態度の習得を行います。また、大学での学習を行う上で必要となる情報システムやソフトウェアの利用方法などの基礎的情報処理技術を、学科・課程の特性に応じて習得することを目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

「情報リテラシー」科目は、「情報基礎概論」、「情報基礎演習Ⅰ」及び「情報基礎演習Ⅱ」から構成します。学科・課程により、履修すべき科目とクラスを指定します。

(4) 当該分野の教育方法

「情報リテラシー」科目のうち、「情報基礎概論」は講義を中心とし、必要に応じて演習を取入れて開講します。また、「情報基礎演習Ⅰ」及び「情報基礎演習Ⅱ」は、コンピュータを使った演習を中心として開講します。

基本教養科目 自然科学と技術の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代社会において私たちは、自然科学の理解とその応用に基づく様々な恩恵を受けています。同時に、それらの未熟さに由来する環境・エネルギー問題など多くの解決しなければならない課題にも直面しています。世界中からの極めて多くの情報に溢れている現代社会においては、自然科学と技術にかかわる基本的な概念・思考方法を学び、その到達点と限界を正しく認識し、自ら科学的な根拠にもとづいて判断する力を身につけることが、主体的な判断に基づいて行動することができる市民社会の一員となるために必要不可欠なのです。基本教養自然科学と技術の分野では、科学・技術の基本的な概念や科学的思考方法、現代社会における科学・技術の役割と限界など、理学・工学・生命科学等の学問分野における基礎的かつ体系的な知識を提供します。学生の皆さんは、各授業科目を通して、自然を科学的な目で認識し、判断できる素養を身につけることで、各々の専門分野をより深く理解することができます。

(2) 教育目的と教育目標

自然科学、工学、生物・生命科学の各学問分野の基本的知識を提供することにより、学生が、佐賀大学学士力の「1 基礎的な知識と技能」の(1)を身につけ、市民社会の一員として必要な市民性を育むことを教育目的とし、主体的な判断に基づき行動する素養を身につけるために、自然科学と技術に関する基礎的知識を修得し、特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

三つのサブ分野（区分）を設け、「基礎自然科学」区分では、「基礎／応用数理の世界」、「物理の世界Ⅰ、Ⅱ」、「化学の世界A、B」、「生物の世界」、「地学の世界」等の、「自然科学・技術の現代的諸相」区分では、「情報科学の世界Ⅰ、Ⅱ」、「機械工学の世界A、B」、「電気電子工学の世界A、B」、「環境科学Ⅱ」等の、「生物科学・生命科学」区分では、「生物科学の世界A～D」、「生命科学の基礎A～F」、「栄養と健康の科学」、「くらしの中の生命科学」等の授業科目を開講します。

(4) 当該分野の教育方法

受講者が、自然科学と技術にかかわる基本的な概念・思考方法を身につけることができるように、入門的かつ包括的な授業を行います。また、主体的に学び判断する素養を身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮します。授業は原則として講義形態で行いますが、必要に応じて演習・実験・グループ学習などを導入する場合があります。

基本教養科目 文化の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代に生きる私たちも過去から続く固有の文化によって、その存在を規定されています。私たち一人ひとりを形作っているのは、共通の言語・思想・歴史・文学・芸術などです。異文化を知ることもまた、世界を認識し、自分自身を知ることへと繋がっていきます。そして自らを知り、自己を確立することが、大学での学習を終えて市民社会の一員として主体的に行動していくうえでの核となるのです。基本教養文化の分野では、日本と世界の文化について、各学問分野における基礎的かつ体系的な知識を提供します。学生諸君は各授業科目で得た基礎知識を携えて、文系学部・学科においては専門学習を積み上げていく礎石として、理数系学部・学科においては専門学習を支える豊かな人間的教養として、各々の専門分野の深い理解へと進んでいけるはずです。

(2) 教育目的と教育目標

言語・思想・歴史・文学・芸術等の各学問分野の基本的知識を提供することにより、学生が、佐賀大学学士力の「1 基礎的な知識と技能」の(1)を身につけ、市民社会の一員として必要な市民性を育むことを教育目的とし、そのために、上記各学問分野の基礎的知識を習得し、特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

四つの下位区分を設け、「言語と文化」では、ドイツ、フランス、中国、韓国・朝鮮、東南アジア等の国や地域の言語と文化、「文学と芸術」では、「日本文学」、「アジアの文化・文学」、「欧米の文化・文学」、「芸術論」等の、「言語と表現」では、「日本語学」、「言語学」、「応用言語学」、「コミュニケーション論」、「記号論」等の、「歴史と文化」では、「哲学・倫理学」、「考古学」、「日本史」、「西洋史」、「人類学」等の授業科目を開講します。

(4) 当該分野の教育方法

標準的教育方法として、受講者が、文化にかかわる諸学問分野の体系と特質を理解できるように、入門的かつ包括的な授業を行います。また知識を教養として身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮します。授業は原則として講義形態で行いますが、担当教員の方針により、必要に応じて演習あるいは実習的な授業を導入する場合があります。

基本教養科目 現代社会の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代社会は極めて複雑化しており、我々の住んでいる国、社会や地域は多様です。私たちは過去に学びつつも、現代社会をより良いものとし、将来の世代にこの社会を引き継ぐ責任があります。そのためには、現代社会の複雑さや多様性を客観的に認識し、その問題性を学ぶ必要があります。このことは、何も文科系を専門とする学生に限らず、理科系の学生にとっても重要なことです。なぜなら、私たちは今ある社会を生きているのであり、社会の構成員として、そのありようを決めうる立場にあるからです。誰か専門家だけの決定に社会の行く末を任せておくだけでは、より良い世の中とはならないことは、報道等によって知りうるように、現代社会が抱えている病理的な問題を見るだけでも明らかです。今、何がこの社会で起こっているのか、その原因はどこにあるのか、その問題に対してどのように対処すべきかを考えるにあたっては、社会をその考察対象とする社会科学の基礎的知識が不可欠であると考えられます。自分が専門とする分野に限らず、広く「社会」に関する基礎知識を学ぶことは、これから社会を動かす原動力となる学生諸君にとって必要であるとともに、社会によって維持されている大学で学ぶ者の責務であるとも言えるでしょう。

(2) 教育目的と教育目標

「現代社会の分野」は、経済学、経営学、法律学、政治学、教育学、地理学、社会学等の基本的な知識を提供することによって、学生が、「現代社会の現状を捉え、健全な社会と生活の質の向上に向けて、主体的に関わり、役立てていく素養を身につける」ことを目的とし、基礎社会科学や教育と人間、現代社会の諸相などを内容とする授業科目を開講しています。そのために、上記各学問分野の基礎的知識を習得し、問題や特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

現代社会の分野の授業科目群は、学生の学習の便宜のため、サブ分野として「基礎社会科学」「教育と人間」「現代社会の諸相」の3つで構成されています。「基礎社会科学」では現代社会に対する社会科学の基礎的な分析視角の提供を主たる講義内容とし、「教育と人間」では現代社会に生きる「人」のありようについての基礎的な分析視角の提供を主たる講義内容としています。また「現代社会の諸相」はより個別的なテーマを講義対象とし、現代社会の抱える問題に対する基礎知識の提供を主たる内容としています。

(4) 当該分野の教育方法

標準的教育方法として、受講者が、現代社会にかかわる諸学問分野の体系・特質や現代社会が抱える個別の問題について理解できるように、入門的かつ基礎的な授業を行います。また知識を教養として身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮を心がけます。授業は原則として講義形式で行いますが、担当教員の方針により、必要に応じて演習あるいは実習的な授業を導入する場合があります。

基本教養科目 総合科目

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育科目及び社会との関係

総合科目は、基本教養科目のすべての分野にわたる授業科目です。高度に発展した現代社会は同時に、確実に安定した将来社会像を描くことのできない社会でもあります。こうした社会を生きる人間は、様々な人々の考えを理解しつつ、自らの力で思考し・判断して自らの将来像を描き、そして将来像へと進むべき道を自らの力で選択しなければなりません。総合科目は、現代社会を生きるために、異なる文化を有する人々の考え方を理解すると共に彼らに自らの考えを伝える力や、自らの将来像及びそこに至る方法を構築する力を養うための科目です。

(2) 教育目的と教育目標

総合科目の教育目的は、高度に発展した現代社会において市民として活動するために必要な基本的素養の涵養です。また総合科目の共通した教育目標は、市民として活動するための、異文化理解やキャリアデザインといったより一般的な知識を身につけることです。

なお、総合科目の履修により習得した単位は、4単位を上限として基本教養科目の各分野のいずれかの単位として含めることができます。

(3) 開講する授業科目

総合科目では、海外の異文化世界やそこに生きる学生を理解するために学習・交流を行う「海外交流実習」と、受講者各人が「キャリア」についての認識を深め、将来の進路・職業について意識的に熟慮する機会を提供する「キャリア教育科目群」を開講します。

「海外交流実習」では異文化に基づいて生きる人々と共生するための知識を身につけます。

また、「キャリア教育科目群」として、「キャリアデザイン」、「佐賀版キャリアデザイン」及び「グループワークの技法と実践：キャリアデザインへの活用」、「チャレンジ・インターンシップ」を開講します。「キャリアデザイン」や「佐賀版キャリアデザイン」では、県内外からゲストスピーカーを招いて、様々な職業についての知識、雇用環境の現状、働き方についての基礎知識を身につけ、自らの職業適性を理解し、働き方の知識を活用しつつ社会において活動してゆくための自己の将来像を設計する力を修得します。「グループワークの技法と実践」では、グループワークの基礎や技法を学ぶとともに実践することで、就職活動や将来の職場で必要となるコミュニケーション力やグループを運営する力を養います。「チャレンジ・インターンシップ」では、企業と協力し、Webサイトを改善する仕事やデータの可視化・分析等を通じて、「課題発見と解決に向けてチームが協力して実行する力」を身につけます。

(4) 当該分野の教育方法

講義を基本としますが、各授業で必要に応じて適宜、グループワーク等による演習を実施します。また、予習・復習、レポート等の提出などの自学自習をすべての授業科目で課します。

インターフェース科目 ①環境コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育と社会の関係

環境問題は、資源・エネルギー・廃棄物・汚染・生物多様性・地球温暖化等、総合的なテーマです。また、身近な地域（ローカル）な課題から地球的規模での課題まで多様性を有しています。これらの解決のためには、自然科学・人文社会科学を含めた学際的な知識の修得と、高い環境倫理意識や主体的な実践力も必要です。大学で学んだ基礎的知識や主体的な行動力・応用力は、卒業後においても一市民として地域社会において必要な責務です。

(2) 教育目的と教育目標

環境・資源・エネルギー等に関する現代的課題を理解し、環境に対する高い倫理観の醸成と、市民社会の一員として環境問題の解決に主体的に取り組むことのできる知識と応用力を養うことを目的とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

- ① **機械工学と環境**：エネルギー・環境問題の背景と、その対策技術の動向を学び、材料、設計・加工、計測及び制御、流れ、熱エネルギーなどの機械工学の技術と、エネルギー・環境及び人間の生活とのかかわりについて理解を深めます。

科目：機械工学と環境Ⅰ（エネルギーと環境問題）、機械工学と環境Ⅱ（設計・加工技術と環境）、機械工学と環境Ⅲ（流れと環境）、機械工学と環境Ⅳ（材料と環境）、機械工学と環境Ⅴ（熱エネルギーと環境）、機械工学と環境Ⅵ（環境計測及び制御）

- ② **電気電子工学と環境**：エレクトロニクスや電気回路、電気電子機器、太陽電池などと、その歴史と現状について学び、エレクトロニクスや電気回路などのテクノロジーと人間の生活のかかわりについて理解を深めます。

科目：電気電子工学と環境Ⅰ、電気電子工学と環境Ⅱ、電気電子工学と環境Ⅲ、電気電子工学と環境Ⅳ

- ③ **有明海学**：有明海をフィールドに自然科学及び人文・社会科学的視点より、内湾や干潟の自然と環境について理解を深め、地域の自然の持続可能な保全、沿岸域住民の文化及び環境負荷の少ないワイズ・ユース（賢明な利用）の在り方について考えます。

科目：有明海学Ⅰ（有明海学概論）、有明海学Ⅱ（干潟の役割）、有明海学Ⅲ（有明海の自然と環境）、有明海学Ⅳ（干潟の保全と活用）

- ④ **地域環境の保全と市民社会**：環境政策や市民による環境保全運動の理念・課題等に関する歴史と現状について学び、身近な廃棄物処理、里山・里地の環境保全活動について、市民とともにフィールドワーク実習や演習を通して体験的に学びます。

科目：地域環境の保全と市民社会Ⅰ（佐賀環境フォーラムⅠ）、地域環境の保全と市民社会Ⅱ（佐賀環境フォーラムⅡ）、地域環境の保全と市民社会Ⅲ（里山・里海イニシアティブⅠ）、地域環境の保全と市民社会Ⅳ（里山・里海イニシアティブⅡ）

(4) 当該分野の教育方法

講義及びフィールドワーク実習・演習・インターンシップを実施します。各プログラムにおける授業科目ⅠとⅡは2年次、ⅢとⅣは3・4年次に履修します。また、実習等は夏季休暇中等を活用した集中講義形式で実施する場合があります。

インターフェース科目 ②文化と共生コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育と社会の関係

本コースで学ぶ意味は、今の日本に求められている文化に関連する力、—1) 異文化を理解し、異文化からの人と交流や協働をする力、2) 性の違いにこだわらず異性とも交流し協働する柔軟性ある豊かな力、あるいは、ビジネスや学業において芸術的感性や芸術的創造を豊かに用いる力—を修得し、そして、それを用いて、自分の専門で修得した技術や知力を社会で効果的に活かせるようになることにあります。

(2) 教育目的と教育目標

本コースの教育目標は、1) 異文化への高い理解力、異文化間コミュニケーション能力をもった人材、2) 社会を、女性も男性も差別なく、公正・平等にひとりひとりが理解され、活かされる社会にしようとする人材、3) 芸術的感性や芸術的創造を社会で豊かに用いることができる豊かな人材を育成することである。本コース「文化と共生」コースを通して、日本と最も密接な関わりを持つアジアの経済、法律、政治、社会、文化を知る、異なる文化の人々と一緒に交流・協働する、芸術を自己における文化の表現・創造ととらえて、芸術を創造する力を養う、あるいは、社会を男性と女性に公正・平等に開かれたものにするにはどうしたらいいかを考えることができます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

本コースは、8つのプログラム「芸術創造」、「異文化交流」、「Intercultural Communication」、「映像・デジタル表現」、「肥前陶磁器産業体験」、「ドイツの歴史・文化探究」、「フランスの歴史・文化探究」、「日・中・韓の文化」からなります。なお、「Intercultural Communication」については、特定の教育プログラムの箇所を参照してください。(P21~22)

① 芸術創造

本プログラムは、音楽と美術・工芸の世界を概観し、更に五感をフルに使う実技体験をすることによって、世界の芸術や、日本の芸術についての基本的な知識を深めるとともに、芸術を通して自分を表現し、交流することを目標とします。

② 異文化交流

本プログラムの目標は、多様な文化からなる世界の異文化の人と交流し、互いを尊重し協働できる力のある若者を育成することです。このプログラムの履修者は、長期留学やグローバル化する社会で必要となる異文化協働体験をします。

③ 肥前陶磁器産業体験

学部芸術表現コースの学生、あるいは、将来、窯業関連における就職を考えている学生を対象としたプログラムである。主な仕事は窯元・商社・研究機関・分業専門工房等の業務補助で、働くための下準備や清掃を行いながら産業の実際を体験する。将来の陶磁器産業に貢献できる人材の育成のために、窯元や商業組合などに強いて協力を要請しているものであり、焼き物づくり体験の授業ではないので、安易な気持ちで抽選に参加しないこと。有田への交通費は受講者の負担である。

④ ドイツの歴史・文化探究

本プログラムではドイツの歴史と文化に関して学期ごとに異なるテーマを取り上げ、ドイツ的思考がどのように表れているかを学びます。その際、言語の習得にも重点を置き、生きた言語としてのドイツ語に向き合うことを目標とします。「ドイツの歴史・文化探究」では、ドイツ語の基礎的知識（佐賀大学基本教養科目「ドイツの言語と文化Ⅰ、Ⅱ」に相当する言語の知識）を有していることが必要です。

⑤ フランスの歴史・文化探究

本プログラムではフランスの歴史と文化に関する様々なテーマについて、平易なフランス語のテキストやインターネットなどの資料を用いて学んでいきます。内容は徐々に難しくなりますが、「フランスの歴史・文化探究」を始めるにあたって、佐賀大学基本教養科目「フランスの言語と文化Ⅰ、Ⅱ」に相当する言語の知識があることが必要です。

⑥ 日・中・韓の文化

本プログラムでは、日本・中国・韓国の文化について学び、その共通点と相違点、交流の歴史を調査・探究することによって、隣国への理解を深めます。

(4) 当該分野の教育方法

インターフェース科目の目標を達成するために、教室で行うディスカッション・グループワーク・実技に加えて、調査、学外研修、留学生との交流活動など主体的な学習を促すための教育方法によって教育がなされます。各プログラムにおける授業科目ⅠとⅡは2年次、ⅢとⅣは3・4年次に並び順で履修します。ただし、異文化交流プログラムでは、科目ⅠとⅡの間の履修順序については、どちらを先に履修しても構いません。また、ⅢとⅣについても、どちらを先に履修しても構いません。ⅢやⅣを履修するには、ⅠとⅡの両方を履修中か、あるいは、履修し終わっていない必要があります。

インターフェース科目 ③生活と科学コース

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

人間と科学技術との関係を見つめ直すことにより、科学を基盤とした社会の持続的発展を思考し、リスクに対応できる安全な社会・生活の構築を支えることができる人材を育成します。

(2) 教育目的と教育目標

現代の社会生活における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集して分析できる知識と技能について学びます。また、科学理論や科学技術を背景として、成熟した市民社会の形成の担い手となるための知識と姿勢を身に付けます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

6 のプログラムから 1 プログラムを選択します。プログラムは 4 科目で構成します。

① 食料と生活

人類の生存に関わる基本的な課題である食料問題を熟考し、食料のあり方についての展望を抱かせます。そのために、食料の獲得の歴史から、現在の食料生産ならびに、健康問題に通じる食品機能性までを体系的に学びます。プログラムには、農業、生物・生命科学のトピックが含まれています。

② データサイエンス

本プログラムは、文系・理系といった専門分野にとらわれず、地域・社会の課題に対し、データに基づく思考や判断ができる人材の育成を目指した文理融合型プログラムです。本プログラムでは、データ分析に関する講義や演習だけでなく、様々な企業・団体とも連携し、データを利活用して現場の課題解決にチャレンジするとともに、データを通じた新たな価値創造にもチャレンジします。

③ 未来を拓く材料の科学

人類の生活を支える材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を学び、新しい材料が新たに生み出す世界を考察します。プログラムには、有機機能性材料、無機機能性材料、生体機能材料に関する解説と実験が含まれています。なお、講義は教員が複数担当し、オムニバス形式でおこないます。

④ エレクトロニクスと生活

エレクトロニクス技術と情報処理技術等について学び、エレクトロニクスや関連する科学技術と人間の生活のかかわりについて理解を深めます。プログラムには、通信・電波・レーダーの解説や生体に関する情報処理などが含まれます。

⑤ 情報技術者キャリアデザイン

現代社会において、情報技術（IT）は、幅広い分野で必要不可欠となっています。本プログラムは、社会に貢献できる情報技術者として必要な知識やスキルの修得を目的とします。プログラムには、IT パスポート試験及び基本情報技術者試験に関する講義及び演習、情報技術者として求められるプレゼンテーション技能、キャリアプランを検討するための解説が含まれます。なお、一部に学外講師によるオムニバス形式の授業を含みます。

⑥ 2 年間でできる「がばいベンチャー」の作り方

本プログラムでは、「事業を起こす」＝新しいサービスを生み出すことをテーマにし、学生が興味をもつ分野の知識や技術と IT とを融合させてアイデアを形とする力を身に着けることを目的とします。そのため、プログラミングの基礎技術を身に付けると共にアントレプレナーシップと企業経営、知財戦略の理解を深めます。プログラミングは興味・関心があれば初心者でも大丈夫です。基本から易しく教えます。この講義を通して、様々な分野を対象に（工業、教育、美術、経営、サービス業、医療、農業、etc.）、IT を活かした新しいサービスとビジネスモデルの創造にトライできる人材の育成を目指します。

(4) 当該分野の教育方法

各プログラムは順次性を持った 4 科目で構成し、社会・生活または科学技術に関する特定の分野を体系的に学ぶことができます。インターフェース科目の教育目標を実現するために、対話・演習・実験・実技・調査など学生の主体的な学習活動を組み込みます。

インターフェース科目 ④人間と社会コース

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

人間と社会との関係を見つめ直すことにより、広く学術を応用した社会の持続的発展を探究し、人と社会の間に生じるさまざまな課題に、主体的・能動的に対応できる人材を育成します。

(2) 教育目的と教育目標

現代の人間がおかれた社会状況から生じる諸々の現象を多面的に扱い、解決に向けた分析や立案に必要な知識や技法について学びます。また、分析や立案の実践を通して自らを社会に接続し、創造性豊かな社会の担い手となるための学問的素養を高めます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野

4つのプログラムから1プログラムを選択します。プログラムは4科目で構成します。

① アントレプレナーシップ

変革の時代にあって、起業家に限らず社会のあらゆる分野でアントレプレナーシップ（起業家精神）を持った人材、すなわち、積極的に新たな価値創造に挑戦するイノベーション人材が求められています。本プログラムでは、国際標準のデザイン思考手法の導入及び社会連携により、自律と連携、地域と国際、創造力と行動力の調和を実践的に修得した、グローバル・リーダー人材の輩出を目指します。

② チームビルディングとリーダーシップ

本プログラムは、大学生にとって必要な「リーダーシップ」と「チームビルディング」について、体系的・段階的・継続的に学ぶプログラムです。授業(グループワーク)や研究室などの正課活動、さらにサークルや地域ボランティアなど正課外活動において、一人ひとりが主体的・能動的に活動に関わることが求められます。しかし、それらの活動の中で自分自身がどのように振る舞うことがチームにとって最善なのか、自分自身がチームに対してどのように貢献できるのかということについて学習する機会は、それほど多くありません。本プログラムでは、実践と省察を繰り返しながら自分自身の持つリーダーシップについて学び、それらの活動において、主体的・能動的に関われる人材の育成を目指します。

③ リサーチ・リテラシー

統計が作成され、利用される過程で暗黙のうちに混入する政治性に惑わされず、社会的責任を考えるためのリテラシーを培うことを、本プログラムの主な目的とします。プログラムには、くらしの中の統計学、人文・教育・社会の統計学、経済・生物・環境の統計学が含まれます。

④ スポーツイベントとボランティアリーダー

スポーツに関するイベントは、有償無償も含めて様々な形のボランティアの協力のおかげで実施できています。しかし、ボランティアが「やってよかった」と思えるイベントは数少ないのが現状です。そこで本プログラムでは、イベントの参加者だけでなく実施している側も「やってよかった」と思えるイベントに必要な要素とは何か、そのようなイベントを作るために自分ができることは何かなどを複数のイベントの実践と反省を繰り返しながら考え、まとめてもらいます。このプログラム中では数回佐賀県庁の職員の方や佐賀県にゆかりのある企業の職員の方を招いて、地方自治体や企業がスポーツイベントを実施する目的やイベントづくりに対する考え方などを教えてもらう予定になっています。

(4) 当該分野の教育方法

各プログラムは順自性を持った4科目で構成し、人間と集団・社会との関係を扱う特定の分野を体系的に学ぶことができます。インターフェース科目の教育目標を実現するために、グループワークや調査演習など学生の主体的・能動的な学習をデザインします。

インターフェース科目 ⑤医療・福祉と社会コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

医学・看護学の専門科目履修の準備段階として、医学・看護学・福祉と社会の関わりを考えます。

(2) 教育目的と教育目標

今日の社会に内在する環境や食の問題あるいは加速する少子高齢化社会や障がい者等の就労支援の現状を見据えて、支援と共生の社会を構築する担い手となる人材の育成

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

3プログラムから1プログラムを選択します。各プログラムは4科目から構成されます。

① 現代社会と医療 （鍋島開講）

現代社会における包括的医療を構築していくための基礎的理解と社会を見据える力を養うことを目的として、現在の医療科学及び体制を、先人が取り組んできた医療史とともに公害・薬害問題や人権の問題などを含めて歴史的に捉え、さらに環境物質等の現代生活に及ぼす影響や、医療人としてのキャリア形成に資する授業科目で構成します。

② 食と健康 （鍋島開講）

人類が生存していくために必須の食と健康の関わりに焦点を絞り、健康社会を構築していく上で必要な基礎的理解と食の在り方を考える力を養うことを目的として、食品科学、栄養学、薬、運動などの授業科目で構成します。現代の食の問題点を、科学的に評価できる力を養います。また、医療人としてのキャリア形成に資する授業科目を含みます。

② ライフサイクルからみた医療 （鍋島開講）

生活習慣病・がん・難病患者や障がい者を一人の人間としてトータルに理解した上で、その生活や就労を支援していくことは、共生社会構築を必要とする現代社会の要請です。このプログラムでは、医療人としてのキャリア形成を考えつつ、人間のライフサイクルにおける多様性の理解をとおして、諸々の問題を行動科学の眼で分析し、解決していく力を養います。

(4) 当該分野の教育方法

このコースは、鍋島キャンパスで開講しますが、本庄キャンパスの学生も歓迎します。

医学部学生は、1年次から受講可能ですが、本庄キャンパスの学生は2年次から受講となります。インターフェース科目の教育目標を実現するために、対話・演習・実験・実技・調査など学生に主体的な学習活動を促すための教育方法に基づく教育内容を組み込みます。

インターフェース科目 ⑥地域・佐賀学コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

人間はさまざまな形の社会の中で生活しています。その中でも地域は生活をするうえで重要な社会の一つです。本科目では地域を社会・文化・経済などのさまざまな面から取り上げ、具体的な地域の形について理解していきます。

(2) 教育目的と教育目標

具体的な事例をあげながら地域に現れる問題を検討し、地域を中心に思考することができる人材を育成します。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

3 プログラムから1プログラムを選択します。各プログラムは4科目から構成されます。

① 佐賀の歴史文化

具体的な地域として最も身近な佐賀を対象に、どのような歴史を得てどういった特徴ある文化が形成されたのかを学びます。

② 地域経済と社会

さまざまな地域に現れる問題を、農業をはじめとするいくつかの産業を題材に検討し、労働問題・雇用問題としても検討します。さらに地域の自主的な存在を保証する地方自治の在り方も検討します。

③ 地域創成学

地域を支えるコミュニティの重要性や、どのようなコミュニティが望ましいのかを学びます。

(4) 当該分野の教育方法

一般の講義を中心にしますが、調査や調査報告を基にした演習形式での議論、レポートなどで地域に対する理解を深めます。

共通教職科目

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

高校時代までの健全な心身の発育発達のための運動・スポーツの実践とは異なり、大学における運動・スポーツの実践の意味は、現在の心身の健康を維持・増進するための実践に加え、加齢とともに低下する心身の能力をいかに予防するかの方法を学ぶ事です。

専門科目の勉強だけでなく、社会で専門的知識を活かして活躍する時にも、まずは心身の健康が重要です。この授業を通して、社会に出て心身の健康の不安を感じた時に、運動・スポーツで改善できる能力を身につけてください。さらに、運動・スポーツの実践による様々な知的体験は、各専門教育の中で相乗効果をもたらすでしょう。

(2) 教育目的と教育目標

生涯を通して運動・スポーツを継続するための素地を養うとともに能動的な実践能力を修得する。

運動・スポーツを安全に実施するための知識を修得する。

運動・スポーツの心身への影響を理解する。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

体育実技Ⅰと体育実技Ⅱを開講しています。学部・学科で履修できる曜日校時が指定されています。履修方法を確認してください。

(4) 当該分野の教育方法

体育実技Ⅰでは大人数で行うスポーツの実践を通して、体育実技Ⅱでは少人数で行うスポーツの実践を通して、様々な運動・スポーツをする際に留意すべき点や継続のための知識について教授する。

外国人留学生のための授業科目

外国語科目 日 本 語（外国人留学生用）

(1) 日本語を学ぶ意味

大学生には幅広い日本語が必要とされます。日本人の友だちを作ったり、アルバイトを探したりするときに必要なコミュニケーション能力、問い合わせなどをするときの事務手続き処理能力、専門の授業についていける専門知識、レポートや発表などで自分の意見や考え方を他の人にわかるように論理的に発信していく日本語力など多岐にわたります。

これらの中でも特に自分の意見や考え方を論理的に発信していく能力は、多くの授業で課されるレポートや発表などに取り組むときに欠かせません。日本での就職活動の時や、社会人として働く時にも重要な能力です。

この能力を養うためには、レポートや発表をするときの基本的な形や言い方を身につけるだけでなく、クラスメートと議論する、他の人が書いた文を批評する、あるいは自分たちで調査するなどの活動を通して、批判的思考力を身につける必要があります。

本学に入学した多くの留学生は、大学生活に必要な能力を既に身につけていますが、日本語クラスに参加すると、より大学生らしい日本語を身につけられるでしょう。

(2) 教育目的と教育目標

佐賀大学の日本語教育は、佐賀大学の学士力1の(2)の「市民社会の一員として思考し活動するための技能」の育成に対応しています。発表スキルやレポート作成スキルの修得、ディスカッションを通じた批判的思考力の育成などを通して、大学生として学術的活動が十分に行える日本語力を養成します。さらに、1年次修了後も、自律的に学習が継続できる力を養います。

(3) 開講する授業科目

1年生の前学期にアカデミック・ジャパニーズAとアカデミック・ジャパニーズB、後学期にアカデミック・ジャパニーズCとアカデミック・ジャパニーズDが開講されます。アカデミック・ジャパニーズAとCは読解中心、Bは発表中心、Dはレポート作成中心のクラスです。また、各授業開始時に必要に応じてプレースメントテストが行われ、学生は日本語能力に合わせて、複数のクラスに分かれます。

(4) 教育方法

各授業で、中心的に学ぶ技能はありますが、どの授業も読む・書く・聞く・話すの4技能の向上をめざすアクティブ・ラーニングを行います。例えば、1) あるテーマに沿って読み、その内容についてディスカッションを行う。2) 短いインタビューを行い、その結果をレポートにまとめる、3) あるテーマに沿って話し、その内容について調査を行い、さらにその結果を発表するなどです。どの授業でも、学生は積極的に参加することが求められます。

外国人留学生のための授業科目

基本教養科目 日本事情（外国人留学生用）

(1) 日本事情を学ぶ意味

世界の様々な国には、それぞれの国に独特の歴史・文化、社会制度、それに自然環境や科学技術の利用方法があります。日本の大学で学ぶ留学生には、こうした日本の独自性を学び、母国の独自性と対比することで、物事をより広い視野をもって捉える力を培ってもらいたいと思います。

(2) 教育目的と教育目標

他国の歴史・文化、社会制度、自然環境や科学技術の利用状況などを自国と比較しながら理解することで、より広い視野を養うことが教育目的です。また、日本における自然科学と技術、文化、現代社会の各分野の状況を理解し、自国の状況と比較する力を身につけることが教育目標です。

(3) 開講する授業科目

「日本事情－自然科学と技術」、「日本事情－文化」、「日本事情－現代社会」の授業科目のうちから毎年2科目を開講します。平成30年度は、「日本事情－自然科学と技術」と「日本事情－文化」を開講します。

(4) 日本事情の教育方法

授業は講義を中心に行いますが、授業の中でグループワークを実施する場合や、小レポートを課す場合があります。

外国人留学生のための授業科目

外国人留学生プログラムのための授業科目

(1) 本授業科目の意味

外国人留学生プログラムのための授業科目は、外国人留学生、佐賀大学短期留学プログラム（SPACE-E, SPACE-J, SPACE-ARITA）、及び日本語・日本文化研修留学プログラムの学生に、「佐賀での生活に必要な日本語力」から「日本語で専門を学ぶのに必要な日本語力」までを身に付けてもらうために開講される科目群です。

なお、単位は特別聴講学生に与えられますが、佐賀大学の留学生ならだれでも受講することができます。大学院生、研究生には特例受講が認められ、受講証明書が発行されます。

(2) 教育目的と教育目標

これからの科目を受講することによって、佐賀での生活や佐賀大学での学業がより円滑に進み、佐賀大学の学生や地域住民との交流がより活発にできるようになることを目標としています。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

外国人留学生プログラムのための授業科目は、大きく、初級、中級、上級の三つのレベルに分けられます。レベルは、学期が始まる前に行われるプレースメントテストによって決定されます。学生は日本語力に合ったそれぞれのレベルで、文法、会話、文字・語彙、聴解、発表などの技能別にクラスを受講します。

(4) 教育方法

これらの科目は、学生の日本語運用能力を伸ばすよう、授業の中での教師と学生、あるいは学生同士のインターアクションを重視しています。そして、必要な練習を、さまざまな形で行います。口頭練習、筆記練習、インタビュー、発表、談話練習などが含まれます。

共通専門基礎科目

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

共通専門基礎科目は、様々な分野の専門教育に必要な、数学や物理などの基礎的な科目を対象として全学的に開講される科目です。

(2) 教育目的と教育目標

これらの科目においては、専門分野によらない共通の領域について学び、高校で学んだ数学や物理学の知識を再確認するとともに、それを発展させ、各専門分野で行われる専門教育科目の着手を円滑にすることが目的です。

数学の分野では、微分積分学や線形代数学の基礎的な考え方を理解し応用できる力を身につけること、物理の分野では、力学や電磁気学における自然の基本的な法則について、その考え方を理解し、応用できる力を身につけることを目標としています。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

数学の分野では「線形代数学基礎Ⅰ」、「微分積分学基礎Ⅰ」、「微分積分学基礎Ⅱ」、「基礎数学」、物理学の分野では「基礎力学」、「基礎電磁気学」が開講予定です。いずれも、各学部、学科、コースにおける履修細則にしたがって、指定されている科目を受講することが必要です。

(4) 当該分野の教育方法

これらの科目は、いずれも講義を主体とした教育方法がとられます。

平成30年度 開講科目一覧

履修登録を行う際は、この「履修の手引き」とともに、学期毎に発行する「授業時間割表」及び掲示板等を確認してください。「履修の手引き」の内容が、変更されることがあります。（表の欄外にある＊は、非常勤講師を表します。）

特に、共通基礎科目のクラス指定の方法は、授業科目毎に異なりますので、注意してください。主な例としては、次のようなものがあります。

入学手続き時に書類を提出することにより事前申請した者を対象に、クラスを指定

- 留学支援英語教育カリキュラムクラス

学科・課程ごとに、履修曜日・校時を指定

- 大学入門科目
- 英語（さらに学籍番号によりクラス指定を行います。）
- 情報リテラシー科目

1回目の授業時に、クラスを指定

- 体育実技

1回目の授業でクラスを編成します。そのため、他の科目とは異なり、クラス分けの後に指示された方法で履修登録手続きを行わなければなりません。

大学入門科目

(前学期)

授業科目	主担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数	
		学 部	学 科	対象年次			
大学入門科目Ⅰ	田 中 彰 一	教育学部	学校教育課程	1年	火2	2	通年科目
大学入門科目Ⅰ	木 原 誠	教育学部	学校教育課程	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	世 波 敏 嗣	教育学部	学校教育課程	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	川中子 正	教育学部	学校教育課程	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	甲 斐 今日子	教育学部	学校教育課程	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	山 津 幸 司	教育学部	学校教育課程	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	小木曾 誠	芸術地域デザイン学部	芸術表現コース	1年	金2	2	
大学入門科目Ⅰ	花 田 伸 一	芸術地域デザイン学部	地域デザインコース	1年	金2	2	
大学入門科目Ⅰ	谷 晶 紅	経済学部	経済学科	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	中 西 一	経済学部	経済学科	1年	火3	2	
大学入門科目Ⅰ	都 築 治 彦	経済学部	経済学科	1年	火3	2	
大学入門科目Ⅰ	品 川 優	経済学部	経済学科	1年	火3	2	
大学入門科目Ⅰ	金 子 晋 右	経済学部	経済学科	1年	火3	2	
大学入門科目Ⅰ	小 林 美 樹	経済学部	経済学科	1年	火3	2	
大学入門科目Ⅰ	宮 崎 卓 朗	経済学部	経営学科	1年	金2	2	
大学入門科目Ⅰ	山 本 長 次	経済学部	経営学科	1年	金2	2	
大学入門科目Ⅰ	松 尾 陽 好	経済学部	経営学科	1年	金2	2	
大学入門科目Ⅰ	洪 延 和	経済学部	経営学科	1年	金2	2	
大学入門科目Ⅰ	山 形 武 裕	経済学部	経営学科	1年	金2	2	
大学入門科目Ⅰ	檜 澤 秀 木	経済学部	経済法学科	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	早 川 智津子	経済学部	経済法学科	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	内 山 真由美	経済学部	経済法学科	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	小 西 もみ恵	経済学部	経済法学科	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	坂 本 麻衣子	医学部	医学科	1年	金3	2	
大学入門科目Ⅰ	長 家 智 子	医学部	看護学科	1年	火3～4	2	
大学入門科目Ⅰ	上 原 崇 人	理工学部	数理科学科	1年	月5	2	クォーター制
大学入門科目Ⅰ	鄭 旭 光	理工学部	物理科学科	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅰ	花 本 猛 士	理工学部	機能物質化学科	1年	金4	2	
大学入門科目Ⅰ	高 橋 英 嗣	理工学部	電気電子工学科	1年	木3	2	
大学入門科目Ⅰ	只 野 裕 一	理工学部	機械システム工学科	1年	火5	2	
大学入門科目Ⅰ	中大窪 千 晶	理工学部	都市工学科	1年	金1	2	
大学入門科目Ⅰ	廣 友 雅 徳	理工学部	知能情報システム学科	1年	火1、火2 (前半)	2	
大学入門科目Ⅰ	一 色 司 郎	農学部	応用生物科学科	1年	月5	2	
大学入門科目Ⅰ	藤 村 美 穂	農学部	生物環境科学科	1年	月5	2	
大学入門科目Ⅰ	堀 谷 正 樹	農学部	生命機能科学科	1年	月5	2	
大学入門科目Ⅱ	花 本 猛 士	理工学部	機能物質化学科	1年	金5	2	クォーター制
大学入門科目Ⅱ	武 富 紳 也	理工学部	機械システム工学科	1年	木3	2	
大学入門科目Ⅱ	廣 友 雅 徳	理工学部	知能情報システム学科	1年	火1、火2 (後半)	2	

(後学期)

授業科目	主担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数	
		学 部	学 科	対象年次			
大学入門科目Ⅰ	坂 本 麻衣子	医学部	医学科	1年	金3	2	通年科目
大学入門科目Ⅱ	上 原 崇 人	理工学部	数理科学科	1年	火2	2	
大学入門科目Ⅱ	青 木 一	理工学部	物理科学科	1年	金5	2	
大学入門科目Ⅱ	高 橋 智	理工学部	物理科学科	1年	金5	2	
大学入門科目Ⅱ	船久保 公 一	理工学部	物理科学科	1年	金5	2	
大学入門科目Ⅱ	河 野 宏 明	理工学部	物理科学科	1年	金5	2	
大学入門科目Ⅱ	杉 山 晃	理工学部	物理科学科	1年	金5	2	
大学入門科目Ⅱ	橋 基	理工学部	物理科学科	1年	金5	2	
大学入門科目Ⅱ	三 沢 達 也	理工学部	電気電子工学科	1年	木3、4	2	
大学入門科目Ⅱ	未 定	理工学部	都市工学科	1年	金1	2	

外国語科目

外国語科目（英語） 前学期（１年次対象）

（注）＊は非常勤講師を表す。以下同じ

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数	
		学 部	学 科	対象年次				
英語 A	江 口 京 子	教育学部	共通	１年	前学期	月 3	1	＊
英語 A	近 藤 直 美	教育学部	共通	１年	前学期	月 3	1	＊
英語 A	廣 田 恵 美	教育学部	共通	１年	前学期	月 3	1	＊
英語 A	熊 本 千 明	芸術地域デザイン学部	共通	１年	前学期	火 1	1	
英語 A	山 中 利 夫	芸術地域デザイン学部	共通	１年	前学期	火 1	1	
英語 A	江 島 孝 人	芸術地域デザイン学部	共通	１年	前学期	火 1	1	＊
英語 A	近 藤 直 美	経済学部	共通	１年	前学期	金 1	1	＊
英語 A	マ イ ヤ ホ フ	経済学部	共通	１年	前学期	金 1	1	
英語 A	山 中 利 夫	経済学部	共通	１年	前学期	金 1	1	
英語 A	林 恵 子	経済学部	共通	１年	前学期	金 1	1	＊
英語 A	廣 田 恵 美	経済学部	共通	１年	前学期	金 1	1	＊
英語 A	江 口 誠	経済学部	共通	１年	前学期	金 1	1	
英語 A	A ボー マ ン	理工学部	数理、物理、知能、機能	１年	前学期	火 3	1	
英語 A	近 藤 直 美	理工学部	数理、物理、知能、機能	１年	前学期	火 3	1	＊
英語 A	白 水 浩 貴	理工学部	数理、物理、知能、機能	１年	前学期	火 3	1	＊
英語 A	小 池 知 英	理工学部	数理、物理、知能、機能	１年	前学期	火 3	1	＊
英語 A	林 恵 子	理工学部	数理、物理、知能、機能	１年	前学期	火 3	1	＊
英語 A	近 藤 直 美	理工学部	機械、電気、都市	１年	前学期	金 2	1	＊
英語 A	マ イ ヤ ホ フ	理工学部	機械、電気、都市	１年	前学期	金 2	1	
英語 A	江 口 誠	理工学部	機械、電気、都市	１年	前学期	金 2	1	
英語 A	名 本 達 也	理工学部	機械、電気、都市	１年	前学期	金 2	1	
英語 A	廣 田 恵 美	理工学部	機械、電気、都市	１年	前学期	金 2	1	＊
英語 A	林 恵 子	理工学部	機械、電気、都市	１年	前学期	金 2	1	＊
英語 A	A ボー マ ン	農学部	共通	１年	前学期	木 4	1	
英語 A	近 藤 直 美	農学部	共通	１年	前学期	木 4	1	＊
英語 A	熊 本 千 明	農学部	共通	１年	前学期	木 4	1	
英語 A	サ ウ ス	医学部	医学科、看護学科	１年	前学期	火 1、金 1	1	＊
英語 A	白 水 浩 貴	医学部	医学科、看護学科	１年	前学期	火 1、金 1	1	＊
英語 B	高 野 吾 朗	医学部	医学科、看護学科	１年	前学期	火 1、金 1	1	
英語 B	小 池 知 英	医学部	医学科、看護学科	１年	前学期	火 1、金 1	1	

留学支援英語（留学支援英語教育カリキュラム受講者用）

授業科目	担当教員	学部・学科・課程等	対象年次	学期	曜日・校時	単位数
英語 A	A ボー マ ン	医学部以外	１年	前学期	水 4 水 5	1
	ルー	医学部	１年	前学期	火 1	1
英語 B	ルー	医学部	１年	前学期	金 1	1

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

後学期（1年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数	
		学 部	学 科	対象年次				
英語B	江 口 京 子	教育学部	共通	1年	後学期	月3	1	*
英語B	廣 田 恵 美	教育学部	共通	1年	後学期	月3	1	*
英語B	山 崎 美穂子	教育学部	共通	1年	後学期	月3	1	*
英語B	A ボー マン	芸術地域デザイン学部	共通	1年	後学期	火1	1	
英語B	鈴 木 繁	芸術地域デザイン学部	共通	1年	後学期	火1	1	
英語B	江 島 孝 人	芸術地域デザイン学部	共通	1年	後学期	火1	1	*
英語B	モ ク ス ン	経済学部	共通	1年	後学期	金1	1	
英語B	未 定	経済学部	共通	1年	後学期	金1	1	
英語B	青 木 ローラ	経済学部	共通	1年	後学期	金1	1	*
英語B	山 中 利 夫	経済学部	共通	1年	後学期	金1	1	
英語B	林 恵 子	経済学部	共通	1年	後学期	金1	1	*
英語B	白 水 浩 貴	経済学部	共通	1年	後学期	金1	1	*
英語B	A ボー マン	理工学部	数理、物理、知能、機能	1年	後学期	火3	1	
英語B	モ ク ス ン	理工学部	数理、物理、知能、機能	1年	後学期	火3	1	
英語B	岡 有 子	理工学部	数理、物理、知能、機能	1年	後学期	火3	1	*
英語B	大 城 綾 子	理工学部	数理、物理、知能、機能	1年	後学期	火3	1	*
英語B	小 池 知 英	理工学部	数理、物理、知能、機能	1年	後学期	火3	1	*
英語B	モ ク ス ン	理工学部	機械、電気、都市	1年	後学期	金2	1	
英語B	未 定	理工学部	機械、電気、都市	1年	後学期	金2	1	
英語B	青 木 ローラ	理工学部	機械、電気、都市	1年	後学期	金2	1	*
英語B	山 中 利 夫	理工学部	機械、電気、都市	1年	後学期	金2	1	
英語B	林 恵 子	理工学部	機械、電気、都市	1年	後学期	金2	1	*
英語B	白 水 浩 貴	理工学部	機械、電気、都市	1年	後学期	金2	1	*
英語B	A ボー マン	農学部	共通	1年	後学期	木4	1	
英語B	岡 有 子	農学部	共通	1年	後学期	木4	1	*
英語B	鈴 木 繁	農学部	共通	1年	後学期	木4	1	
英語C	白 水 浩 貴	医学部	医学科、看護学科	1年	後学期	火1	1	*
英語C	岡 有 子	医学部	医学科、看護学科	1年	後学期	火1、金1	1	*
英語C	江 口 誠	医学部	医学科、看護学科	1年	後学期	金1	1	
英語D	高 野 吾 朗	医学部	医学科、看護学科	1年	後学期	火1、金1	1	
英語D	小 池 知 英	医学部	医学科、看護学科	1年	後学期	火1、金1	1	*

留学支援英語（留学支援英語教育カリキュラム受講者用）

授業科目	担当教員	学部・学科・課程等	対象年次	学期	曜日・校時	単位数
英語B	A ボー マン	医学部以外	1年	後学期	水4 水5	1
英語C	ルー	医学部	1年	後学期	火1	1
英語D	ルー	医学部	1年	後学期	金1	1

日本語（外国人留学生対象）

授業科目	担当教員	学 部	対象学年	学期	曜日・校時	単位数	
アカデミック・ ジャパニーズA	a 布 尾 勝一郎	全学部	1年	前学期	水3	1	
	b 吉 川 達						
アカデミック・ ジャパニーズB	b 布 尾 勝一郎	全学部	1年	前学期	金3	1	
アカデミック・ ジャパニーズC	a 布 尾 勝一郎	全学部	1年	後学期	金3	1	
	b 吉 川 達						
アカデミック・ ジャパニーズD	a 満 生 洋 子	全学部	1年	後学期	水3	1	*
	b 布 尾 勝一郎						

外国語科目

外国語科目（英語） 前学期（2年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
英語C	未定	教育学部		2年	前学期	金3	1
英語C	未定	教育学部		2年	前学期	金3	1
英語C	未定	教育学部		2年	前学期	金3	1
英語C	未定	芸術地域デザイン学部		2年	前学期	木4	1
英語C	未定	芸術地域デザイン学部		2年	前学期	木4	1
英語C	未定	芸術地域デザイン学部		2年	前学期	木4	1
英語C	未定	経済学部		2年	前学期	木3	1
英語C	未定	経済学部		2年	前学期	木3	1
英語C	未定	経済学部		2年	前学期	木3	1
英語C	未定	経済学部		2年	前学期	木3	1
英語C	未定	経済学部		2年	前学期	木3	1
英語C	未定	経済学部		2年	前学期	木3	1
英語C	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2年	前学期	月2	1
英語C	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2年	前学期	月2	1
英語C	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2年	前学期	月2	1
英語C	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2年	前学期	月2	1
英語C	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2年	前学期	月2	1
英語C	未定	理工学部	機械、電気、都市	2年	前学期	火2	1
英語C	未定	理工学部	機械、電気、都市	2年	前学期	火2	1
英語C	未定	理工学部	機械、電気、都市	2年	前学期	火2	1
英語C	未定	理工学部	機械、電気、都市	2年	前学期	火2	1
英語C	未定	理工学部	機械、電気、都市	2年	前学期	火2	1
英語C	未定	理工学部	機械、電気、都市	2年	前学期	火2	1
英語C	未定	農学部		2年	前学期	月1	1
英語C	未定	農学部		2年	前学期	月1	1
英語C	未定	農学部		2年	前学期	月1	1
英語B（再履修）	未定			2年以上	前学期	水1	1
英語B（再履修）	未定			2年以上	前学期	水2	1
英語D（再履修）	未定			3年以上	前学期	未定	1
英語D（再履修）	未定			3年以上	前学期	未定	1
英語D（再履修）	未定			3年以上	前学期	未定	1

留学支援英語（留学支援英語教育カリキュラム受講者用）

授業科目	担当教員	学部・学科・課程等	対象年次	学期	曜日・校時	単位数
英語C	未定	医学部以外	2年	前学期	未定	1

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

後学期（2 年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
英語 D	未定	教育学部		2 年	後学期	金 3	1
英語 D	未定	教育学部		2 年	後学期	金 3	1
英語 D	未定	教育学部		2 年	後学期	金 3	1
英語 D	未定	芸術地域デザイン学部		2 年	後学期	木 4	1
英語 D	未定	芸術地域デザイン学部		2 年	後学期	木 4	1
英語 D	未定	芸術地域デザイン学部		2 年	後学期	木 4	1
英語 D	未定	経済学部		2 年	後学期	木 3	1
英語 D	未定	経済学部		2 年	後学期	木 3	1
英語 D	未定	経済学部		2 年	後学期	木 3	1
英語 D	未定	経済学部		2 年	後学期	木 3	1
英語 D	未定	経済学部		2 年	後学期	木 3	1
英語 D	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2 年	後学期	月 2	1
英語 D	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2 年	後学期	月 2	1
英語 D	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2 年	後学期	月 2	1
英語 D	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2 年	後学期	月 2	1
英語 D	未定	理工学部	数理、物理、知能、機能	2 年	後学期	月 2	1
英語 D	未定	理工学部	機械、電気、都市	2 年	後学期	火 2	1
英語 D	未定	理工学部	機械、電気、都市	2 年	後学期	火 2	1
英語 D	未定	理工学部	機械、電気、都市	2 年	後学期	火 2	1
英語 D	未定	理工学部	機械、電気、都市	2 年	後学期	火 2	1
英語 D	未定	理工学部	機械、電気、都市	2 年	後学期	火 2	1
英語 D	未定	理工学部	機械、電気、都市	2 年	後学期	火 2	1
英語 D	未定	農学部		2 年	後学期	月 1	1
英語 D	未定	農学部		2 年	後学期	月 1	1
英語 D	未定	農学部		2 年	後学期	月 1	1
英語 A（再履修）	未定			2 年以上	後学期	水 1	1
英語 A（再履修）	未定			2 年以上	後学期	水 2	1
英語 B（再履修）	未定			2 年以上	後学期	未定	1
英語 B（再履修）	未定			2 年以上	後学期	未定	1
英語 C（再履修）	未定			3 年以上	後学期	未定	1
英語 C（再履修）	未定			3 年以上	後学期	未定	1
英語 D（再履修）	未定			3 年以上	後学期	未定	1
英語 D（再履修）	未定			3 年以上	後学期	未定	1

留学支援英語（留学支援英語教育カリキュラム受講者用）

授業科目	担当教員	学部・学科・課程等	対象年次	学期	曜日・校時	単位数
英語 D	未定	医学部以外	2 年	後学期	未定	1

情報リテラシー科目

情報リテラシー科目（情報基礎概論）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎概論	角 和 博	教育学部		1 年	火 3	2
情報基礎概論	羽 石 寛 志	経済学部	経済学科	1 年	金 2	2
情報基礎概論	江 藤 博 文	経済学部	経営学科	1 年	火 2	2
情報基礎概論	安 田 伸 一	経済学部	経済法学科	1 年	金 3	2
情報基礎概論	高 崎 光 浩	医学部	医学科	1 年	金 2	2
情報基礎概論	高 崎 光 浩	医学部	看護学科	1 年	金 3	2
情報基礎概論	山 下 義 行	理工学部	知能情報システム学科	1 年	火 4	2
情報基礎概論	堂 蘭 浩	理工学部	電気電子工学科	1 年	月 2	2
情報基礎概論	帯 屋 洋 之	理工学部	都市工学科	1 年	火 5	2
情報基礎概論	北 垣 浩 志	農学部	全学科	1 年	金 2	2

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎概論	河 道 威・他	芸術地域デザイン学部		1 年	金 1	2

情報リテラシー科目（情報基礎演習Ⅰ）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎演習Ⅰ	小 野 文 慈	教育学部		1 年	木 3	1
情報基礎演習Ⅰ	岡 島 俊 哉	教育学部		1 年	木 3	1
情報基礎演習Ⅰ	高 崎 光 浩	医学部	医学科	1 年	月 1・2	1
情報基礎演習Ⅰ	岡 崎 泰 久	理工学部	知能情報システム学科	1 年	金 1	1
情報基礎演習Ⅰ	成 田 貴 行・他	理工学部	機能物質化学科	1 年	月 2	1
情報基礎演習Ⅰ	佐 藤 和 也	理工学部	機械システム工学科	1 年	火 4	1
情報基礎演習Ⅰ	宮 良 明 男	理工学部	機械システム工学科	2 年	火 4	1
情報基礎演習Ⅰ	古 川 達 也	理工学部	電気電子工学科	1 年	月 4	1
情報基礎演習Ⅰ	後 藤 聡	理工学部	電気電子工学科	1 年	月 4	1
情報基礎演習Ⅰ	和 田 康 彦	農学部	応用生物科学科	1 年	金 4	1
情報基礎演習Ⅰ	稲 葉 繁 樹	農学部	生物環境科学科	1 年	金 5	1
情報基礎演習Ⅰ	和 田 康 彦	農学部	生命機能科学科	1 年	金 4	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎演習Ⅰ	大 串 浩一郎	理工学部	都市工学科	2 年	金 3	1
情報基礎演習Ⅰ	中大窪 千 晶	理工学部	都市工学科	2 年	金 3	1

情報リテラシー科目（情報基礎演習Ⅱ）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎演習Ⅱ	堂 蘭 浩	理工学部	電気電子工学科	2 年	木 2	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次		
情報基礎演習Ⅱ	坂 口 幸 一	理工学部	機能物質化学科	1 年	月 2	1
情報基礎演習Ⅱ	佐 藤 和 也	理工学部	機械システム工学科	1 年	火 4	1
情報基礎演習Ⅱ	宮 良 明 男	理工学部	機械システム工学科	2 年	火 4	1

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室内の収容人数

基本教養科目

[自然科学と技術の分野]

サブ分野	授業科目	副題	区分	単位数	平成30年度		平成31年度		主担当教員等	
					前学期	後学期	前学期	後学期	氏名	所属
基礎自然科学										
	基礎数理の世界			2	○		○		梶木屋龍治	工学系
	応用数理の世界			2	○		○		半田 賢司	工学系
	物理の世界Ⅰ	古典物理学の世界		2		○			遠藤・石渡	工学系
	物理の世界Ⅱ	現代物理学の世界		2	○				遠藤・石渡	工学系
	化学の世界A			2		○			富永・北村	工学系
	化学の世界A			2				○	花本 猛士	工学系
	化学の世界B			2	○				長田・森貞	工学系
	化学の世界B			2			○		鯉川 雅之 他	工学系・分析
	実験化学Ⅰ			2	○				成田 貴行 他	工学系 他
	実験化学Ⅰ			2			○		鯉川 雅之	工学系
	実験化学Ⅱ			2		○			川喜田英孝 他	工学系 他
	実験化学Ⅱ			2				○	未定	工学系
	生物学の世界			2		○			宮脇 博巳	教育
	実験生物学			2	○		○		野間口眞太郎	農
	地学の世界			2		○			角縁 進	教育
	地学の世界			2				○	高島 千鶴	教育
自然科学・技術の現代的諸相										
	Breakthroughs in the Modern Age			2	○		○		マイヤホフ	全学
	The Natural World			2	○		○		A ボーマン	全学
	The Natural World			2	○鍋		○鍋		サ ウ ス	非
	Sustainable Society			2	○		○		ル ー	全学
	情報科学の世界Ⅰ	情報のしくみ		2	○		○		日永田泰啓	工学系
	情報科学の世界Ⅰ	情報のしくみ		2	○		○		堀 良彰	全学
	情報科学の世界Ⅱ	社会の中の情報科学		2	○		○		只木 進一	工学系
	情報科学の世界Ⅱ	社会の中の情報科学		2		○		○	堀 良彰	全学
	機械工学の世界A	やさしい材料の力学		2		○		○	服部・萩原	工学系
	機械工学の世界B	やさしい流れの力学		2	○		○		木上・松尾	工学系
	電気電子工学の世界A			2	○		○		木本 晃	工学系
	電気電子工学の世界B			2		○		○	深井 澄夫	工学系
	都市と生活	住環境の科学		2	○		○		小島 昌一	工学系
	資源循環論Ⅰ			2	○				染谷 孝 他	農学部
	農業と農地環境			2	○				近藤 文義	農
	セラミックスの不思議		ネット	2		○			渡 孝則	工学系
	21世紀のエネルギーと環境問題		ネット	2	○		○		池上 康之	海エネ
生物科学・生命科学										
	生物科学の世界A	細胞と遺伝子		2	○		○		鈴木・早川	農学部
	生物科学の世界B	ゲノムから生命を知る		2	○				永野 幸生	分析
	生物科学の世界C	生物の生態と社会		2			○		野間口眞太郎	農
	栄養科学A	栄養素の体内挙動(摂取・利用から排泄まで)		2	○		○		岡島 俊哉	教育
	栄養科学B	恒常性の基盤・維持から疾病まで 健康維持の実際		2		○		○	岡島 俊哉	教育
	くらしの中の生命科学		ネット	2		○		○	和田 康彦 他	農 他
	生命科学の基礎A	からだのしくみ		2		○鍋		○鍋	河野 史	医
	生命科学の基礎B	実験動物学		2		○鍋	○鍋		北嶋・松久	分析
	生命科学の基礎C	医学・看護学研究の勧め		2	○鍋		○鍋		市場 正良	医
	生命科学の基礎D	放射線生物学		2					未定	
	生命科学の基礎F	生体分子と酵素		2	○鍋		○鍋		池田 義孝 他	医

基本教養科目

〔文化の分野〕

サブ分野	授 業 科 目	副 題	区分	単位数	平成30年度		平成31年度		主担当教員等		
					前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属	
言語と文化											
	ドイツの言語と文化Ⅰ			2	0・0・0		○		重竹 芳江	全学	
	ドイツの言語と文化Ⅱ			2		0・0・0		○	重竹 芳江	全学	
	フランスの言語と文化Ⅰ			2	0・0・0		0・0・0		相野 毅	全学	
	フランスの言語と文化Ⅱ			2		0・0・0		0・0・0	相野 毅	全学	
	中国の言語と文化Ⅰ			2	○		○		谷口 高志	教育	
	中国の言語と文化Ⅱ			2		○		○	谷口 高志	教育	
	中国の言語と文化Ⅱ			2		○			古川 末喜	全学	
	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ			2	○		○		村田 寛	非	
	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ			2		○		○	村田 寛	非	
	東南アジアの言語と文化	東南アジアへのとびら		2	○		○		山崎 功・他	芸術 他	
	Western Culture			2	○		○		大渡 ドーガン	全学	
	Immersion Program			2	集中		集中		江口 誠	全学	
文学と芸術											
	日本文学			2		○鍋		○鍋	高野 吾朗	医	
	アジアの文化・文学	中国		2	0・0鍋	0・0鍋			古川 末喜	全学	
	欧米の文化・文学			2	○鍋		○鍋		高野 吾朗	医	
	芸術論	美術		2	○		○		栗山・吉住	教育・芸術	
	芸術論	有田焼入門	ネット	2	○	○	○	○	中村 隆敏	芸術	
	芸術論	音楽		2	○		○		山田 潤次	教育	
	画像へのアプローチ			2		○	○		大塚 清吾	非	
	伝統工芸と匠			2					大塚 清吾	非	
	映像制作入門		ネット	2	○	○	○	○	河道 威	特任	
	シルクロード入門		ネット	2	○	○			河道・角	特任・教育	
言語と表現											
	日本語学	日本語の歴史		2	○		○		中里 理子	教育	
	日本語学	外国語としての日本語		2			○		丹羽 順子	全学	
	言語学	統語論入門		2	○		○		古賀 弘毅	全学	
	言語学	社会言語学		2	○		○		布尾勝一郎	全学	
	応用言語学	日本語教育評価法		2	○		○		吉川 達	全学	
	コミュニケーション論	人間社会とコミュニケーション	ネット	2	○	○	○	○	早瀬 博範	教育	
	記号論	記号情報論		2	○鍋	○	○	○	木戸田 力	経済	
	Critical Thinking for the Modern Age			2		○		○	ル ー	全学	
	Cultural Metaphors			2		○		○	A ボーマン	全学	
	Cultural Metaphors			2		○鍋		○鍋	サ ウ ス	非	
	デジタル表現技法			2					西村雄一郎	非	
	教育デジタル表現			2		○		○	穂屋下 茂	特任	
	プロデューサ原論			2	○				穂屋下 茂	特任	
	映画製作			2		○	○		西村雄一郎	非	
	立体アニメーション入門			2		○		○	角 和博	教育	
歴史と文化											
	哲学・倫理学			2		○		○	後藤 正英	教育	
	考古学			2	○		○		重藤 輝行	芸術	
	考古学	吉野ヶ里学	ネット	2		○		○	重藤 輝行	芸術	
	日本史			2	0・0鍋	○	0・0鍋	○	宮武 正登	全学	
	日本史	近現代史		2			○		鬼嶋 淳	教育	
	日本史	佐賀の歴史	ネット	2		○		○	伊藤 昭弘	地域学	
	西洋史			2	○	○	○	○	都築 彰	教育	
	人類学			2	○鍋		○鍋		菊池・川久保	医	
	スポーツウェルネスの世界			2	○鍋	○鍋	○鍋	○鍋	倉岡 晃夫	医	
	日本事情——文化			2		○			宮武 正登	全学	
	文化の分野特別講義	文化の分野特別講義－Global Leadership			2	○		○		山田 直子	国交推進セ
		文化の分野特別講義－囲碁			1	○		○		名本 達也	全学

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

基本教養科目

[現代社会の分野]

サブ分野	授 業 科 目	副 題	区分	単位数	平成30年度		平成31年度		主担当教員等	
					前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属
基礎社会科学										
	経済学			2	○	○	○	○	上山 和俊	経済
	会計学			2		○		○	小川 哲彦	経済
	経営学			2	○			○	洪 延和	経済
	経営学			2	○			○	篠崎 伸也	経済
	法律学			2	○		○		中山 泰道	経済
	政治学			2		○			畑山 敏夫	経済
	日本国憲法			2		○○○	○○	○	城下健太郎	非
	社会思想史	近代日本思想の変遷		2		○		○	福井 寿雄	アドミッション
	社会思想史			2			○		吉岡 剛彦	教育
	地理学			2	○			○	五十嵐 勉	全学
	Introduction to Sociology			2					未定	全学
教育と人間										
	教育学	教育の研究課題		2		○		○	村山 詩帆	全学
	教育学	教育の社会学		2	○		○		村山 詩帆	全学
	教育学			2		○		○	山内 一祥	全学
	教育学	教員のための環境教育	ネット	2		○		○	岡島 俊哉	教育
	心理学A	発達心理学		2	○鍋・○	○	○鍋・○	○	村久保雅孝	医
	心理学A	心の思想史		2	○		○		大元 誠	教育
	心理学B	対人関係の心理学		2		○		○	村久保雅孝	医
	健康科学A			2	○		○		佐藤 武	保管センター
	健康科学A			2		○		○	木道 圭子	保管センター
	健康科学A	人体科学		2	○・○		○・○		福留 健司	全学
	健康科学B	病態科学		2		○・○		○・○	福留 健司	全学
	スポーツと健康			2	○	○	○	○	町田 正直	全学
	障がい者支援論	遊具を活用した障害児の発育促進		2		○鍋		○鍋	松尾・井手	医
	Citizenship Education			2	○		○		早瀬 博範	教育
	情報メディアと倫理			2	○		○		大谷 誠	総合情報
	情報メディアと倫理			2		○		○	堀 良彰	全学
	身体表現入門			2	○		○		青柳 達也	非
	シナリオ入門			2	○		○		角 和博	教育
	心の病と癒しのプロセス			2		○			石井 宏祐	教育
	心身の発達過程			2	○		○		中島 俊思	学支援室
現代社会の諸相										
	ジャーナリズムの現在	地方紙の役割とメディアリテラシー		2		○		○	上山 和俊	経済
	アジアコミュニティ論			2		○		○	張 韓模	経済
	知的財産学		ネット	2		○		○	寺本 顕武	工学系
	環境科学Ⅰ			2	○		○		岡島 俊哉	教育
	環境科学Ⅲ			4		○		○	岡島 俊哉	教育
	環境会計			2	○		○		小川 哲彦	経済
	高齢者・障がい者の生活・就労支援概論		同期	2	○				堀川 悦夫 他	医
	高齢者・障がい者就労支援の諸理論			2		○			堀川・松爲	医・非
	Life in the Global World			2		○		○	モク スン	全学
	インストラクショナル・デザイン		ネット	2	○	○	○	○	角 和博	教育
現代社会の分野特別講義										

総合科目

授業科目	副 題	区分	単位数	平成30年度		平成31年度		主担当教員等	
				前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属部局
海外交流実習			2	○	○	○	○	山田 直子	国際セ
海外交流実習	ドイツ語とドイツ文化のための研修旅行		2		○		○	重竹 芳江	全学
海外交流実習	香港中文大学学生交流プログラム		2		○			吉川 達	全学
キャリアデザイン			2		○		○	森田佐知子	非 *
佐賀版キャリアデザイン			2		○			五十嵐 勉	地域共生センター
グループワークの技法と実践			2		○		○	山内 一祥	全学
データサイエンスへの招待			2		○			皆本 晃弥	工学系
チャレンジ・インターンシップA			1		○			皆本 晃弥	工学系
チャレンジ・インターンシップB			2		○			皆本 晃弥	工学系
チャレンジ・インターンシップB			2		○			兒玉 宏樹	分析
チャレンジ・インターンシップB			2		○			田中 宗浩	農
チャレンジ・インターンシップB			2		○			五十嵐 勉	全学

外国人留学生用科目

授業科目	副 題	区分	単位数	平成30年度		平成31年度		主担当教員等	
				前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属部局
日本事情－自然科学と技術			2	○		○		堀 良彰	全学
日本事情－文化			2		○			宮武 正登	全学
日本事情－現代社会			2				○	未定	全学

インターフェース科目

環境コース

※開講学期や担当教員は、変更する場合があります。

授業科目	単位数	開講学期	平成31年度		平成32年度		担当教員	
			前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属
機械工学と環境Ⅰ（エネルギーと環境問題）	2	前学期	●				永田 修一 他	海エネ
機械工学と環境Ⅱ（設計・加工技術と環境）	2	後学期		●			長谷川裕之 他	工学系 他
機械工学と環境Ⅲ（流れと環境）	2	前学期			●		塩見 憲正 他	工学系 他
機械工学と環境Ⅲ（材料と環境）	2	前学期			●		只野 裕一 他	工学系 他
機械工学と環境Ⅳ（熱エネルギーと環境）	2	後学期				●	石田 賢治 他	工学系 他
機械工学と環境Ⅳ（環境計測及び制御）	2	後学期				●	寺本 顕武 他	工学系 他
電気電子工学と環境Ⅰ（環境と電気工学）	2	前学期	●				猪原 哲	工学系
電気電子工学と環境Ⅱ（環境と電磁工学）	2	後学期		●			村松 和弘	工学系
電気電子工学と環境Ⅲ（環境とプラズマエレクトロニクス）	2	前学期			●		大津 康徳	工学系
電気電子工学と環境Ⅳ（環境とワイヤレス通信工学）	2	後学期				●	西山 英輔	工学系
有明海学Ⅰ（有明海学概論）	2	前学期	●				速水 祐一 他	低平 他
有明海学Ⅱ（干潟の役割）	2	後学期		●			郡山 益実	全学
有明海学Ⅲ（有明海の自然と環境）	2	前学期			●		速水 祐一 他	低平 他
有明海学Ⅳ（干潟の保全と活用）	2	後学期				●	五十嵐 勉 他	全学 他
地域環境の保全と市民社会Ⅰ（佐賀環境フォーラムⅠ）	2	前学期	●				兒玉・五十嵐	分析・全学
地域環境の保全と市民社会Ⅱ（佐賀環境フォーラムⅡ）	2	後学期		●			兒玉・五十嵐	分析・全学
地域環境の保全と市民社会Ⅲ（環境保全運動と市民Ⅰ）	2	前学期			●		五十嵐・藤村	全学・農
地域環境の保全と市民社会Ⅳ（環境保全運動と市民Ⅰ）	2	後学期				●	五十嵐 勉	全学

文化と共生コース

授業科目	単位数	開講学期	平成31年度		平成32年度		担当教員	
			前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属
芸術創造Ⅰ（音楽の理論・歴史）	2	後学期		●			橋本 正昭	教育
芸術創造Ⅱ（美術・工芸の歴史・理論）	2	前学期	●				荒木 博申 他	芸術 他
芸術創造Ⅲ（音楽実技体験Ⅰ）	2	前学期			●		今井 治人 他	教育 他
芸術創造Ⅲ（平面・立体表現活動Ⅰ）	2	前学期			●		徳安 和博 他	芸術 他
芸術創造Ⅳ（平面・立体表現活動Ⅱ）	2	後学期				●	柳・鳥谷 他	芸術 他
芸術創造Ⅳ（音楽実技体験Ⅱ）	2	前学期			●		今井・板橋	教育・教育
異文化交流Ⅰ（English Storytelling）	2	前学期	●				マイヤホフ	全学
異文化交流Ⅰ（身近な異文化に触れる）	2	前学期	●				山内 一祥	全学
異文化交流Ⅱ（SPACE-Eの留学生と交流）	2	後学期		●			古賀 丹羽	全学
異文化交流Ⅱ（「異文化交流」入門）	2	後学期		●			布尾勝一郎	全学
異文化交流Ⅲ（地域社会参加）	2	後学期			●		山田 直子	国際
異文化交流Ⅲ（Our life and ethical issues）	2	前学期			●		後藤 正英	全学
異文化交流Ⅲ（Sequential Drawing in English）	2	前学期			●		A ボーマン	全学
異文化交流Ⅳ（Ancient and Modern Traditions of Health）	2	後学期				●	ル ー	全学
異文化交流Ⅳ（言語学における野外手法）	2	前学期				●	古賀 弘毅	全学
異文化交流Ⅳ（留学生と日本人学生がともに考える現代社会）	2	後学期				●	吉川 達	全学
Intercultural CommunicationⅠ	2	前学期	●鍋		●鍋		サ ウ ス	非
Intercultural CommunicationⅠ	2	前学期	●		●		ル ー	全学
Intercultural CommunicationⅡ	2	前学期	●鍋		●鍋		サ ウ ス	非
Intercultural CommunicationⅡ	2	後学期		●		●	A ボーマン	全学
Intercultural CommunicationⅢ	2	前学期	●		●	●	大渡ドーガン	非
Intercultural CommunicationⅢ	2	後学期		●鍋		●鍋	サ ウ ス	非
Intercultural CommunicationⅣ	2	後学期		●		●	A ボーマン	全学
Intercultural CommunicationⅣ	2	後学期		●鍋		●鍋	サ ウ ス	非
映像・デジタル表現Ⅰ	2	前学期	●				角 和博 他	教育
映像・デジタル表現Ⅱ	2	前学期		●			中村 隆敏 他	芸術 他
映像・デジタル表現Ⅲ	2	後学期			●		中村 隆敏 他	芸術 他
映像・デジタル表現Ⅳ	2	前学期				●	中村 隆敏 他	芸術 他
肥前陶磁器産業体験Ⅰ	2	前学期	●				田中 右紀	芸術
肥前陶磁器産業体験Ⅱ	2	後学期		●			田中 右紀	芸術
肥前陶磁器産業体験Ⅲ	2	前学期			●集中		田中 右紀 他	芸術
肥前陶磁器産業体験Ⅳ	2	前学期			●集中		田中 右紀 他	芸術
ドイツの歴史・文化探究Ⅰ	2	前学期	●				重竹 芳江	全学
ドイツの歴史・文化探究Ⅱ	2	後学期		●			重竹 芳江	全学
ドイツの歴史・文化探究Ⅲ	2	前学期			●		重竹 芳江	全学
ドイツの歴史・文化探究Ⅳ	2	後学期				●	重竹 芳江	全学
フランスの歴史・文化探究Ⅰ	2	前学期	●				相野 毅	全学
フランスの歴史・文化探究Ⅱ	2	後学期		●			相野 毅	全学
フランスの歴史・文化探究Ⅲ	2	前学期			●		相野 毅	全学
フランスの歴史・文化探究Ⅳ	2	後学期				●	相野 毅	全学
日・中・韓の文化Ⅰ	2	前学期	●				中尾友香梨	全学
日・中・韓の文化Ⅱ	2	後学期		●			中尾友香梨	全学
日・中・韓の文化Ⅲ	2	前学期			●		中尾友香梨	全学
日・中・韓の文化Ⅳ	2	後学期				●	中尾友香梨	全学

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室内の人数

インターフェース科目

生活と科学コース

授業科目	単位数	開講学期	平成31年度		平成32年度		担当教員	
			前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属
食料と生活Ⅰ（食料の生産と課題）	2	前学期	●				鄭 紹輝 他	農 他
食料と生活Ⅱ（食料資源の保護）	2	後学期		●			大島 一里 他	農 他
食料と生活Ⅲ（食料資源の開発）	2	前学期			●		和田 康彦 他	農 他
食料と生活Ⅳ（食料と健康）	2	後学期				●	光富 勝 他	農 他
データサイエンスⅠ	2	前学期	●				未定	未定
データサイエンスⅡ	2	後学期		●			未定	未定
データサイエンスⅢ	2	前学期			●		未定	未定
データサイエンスⅣ	2	後学期				●	未定	未定
未来を拓く材料の科学Ⅰ（有機機能性材料の科学）	2	前学期	●				竹下 道範 他	工学系 他
未来を拓く材料の科学Ⅱ（無機機能性材料の科学）	2	後学期		●			矢田 光徳 他	工学系 他
未来を拓く材料の科学Ⅲ（生体機能材料の科学）	2	前学期			●		海野 雅司 他	工学系 他
未来を拓く材料の科学Ⅳ（材料の科学実験）	2	後学期				●	成田 貴行 他	工学系 他
エレクトロニクスと生活Ⅰ（通信のしくみ）	2	前学期	●				佐々木伸一	工学系
エレクトロニクスと生活Ⅱ（生体に学ぶ情報処理入門）	2	後学期		●			和久屋 寛	工学系
エレクトロニクスと生活Ⅲ（生活の中の電波とレーダーの基礎）	2	前学期			●		田中 高行	工学系
エレクトロニクスと生活Ⅳ（データ解析）	2	後学期				●	伊藤 秀昭	工学系
情報技術者キャリアデザインⅠ（情報技術者キャリアデザイン入門）	2	前学期	●				前田 明子	工学系
情報技術者キャリアデザインⅡ（テクニカル・コミュニケーション）	2	後学期		●			岡崎 泰久 他	工学系 他
情報技術者キャリアデザインⅢ（情報技術者キャリアデザイン実践）	2	前学期			●		山口 暢彦	工学系
情報技術者キャリアデザインⅣ（情報技術者コロキウム）	2	後学期				●	奥村・福田	工学系・工学系
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅰ（アントレプレナーシップとプログラミング入門）	2	前学期	●				田中 宗浩 他	農 他
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅱ（知財戦略とプログラミングの活用）	2	後学期		●			田中 宗浩 他	農 他
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅲ（ビジネスモデルとプログラミング中級）	2	前学期			●		田中 宗浩 他	農 他
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅳ（ビジネスプランの作成・発表）	2	後学期				●	田中 宗浩 他	農 他

人間と社会コース

授業科目	単位数	開講学期	平成31年度		平成32年度		担当教員	
			前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属
アントレプレナーシップⅠ	2	前学期	●				松前あかね 他	非 他
アントレプレナーシップⅡ	2	後学期		●集中			松前あかね 他	非 他
アントレプレナーシップⅢ	2	前学期			●		松前あかね 他	非 他
アントレプレナーシップⅣ	2	後学期				●集中	松前あかね 他	非 他
インターフェース演習（アントレプレナーシップ）	2	前学期					松前あかね 他	非 他
チームビルディングとリーダーシップⅠ（イベントプランニングとチームビルディング）	2	前学期	●				山内 一祥 他	全学 他
チームビルディングとリーダーシップⅡ（ライフマネージメントとセルフリーダーシップ）	2	後学期		●			山内 一祥	全学
チームビルディングとリーダーシップⅢ（メンタリングとリーダーシップ）	2	前学期			●		山内 一祥	全学
チームビルディングとリーダーシップⅣ（リーダーとリーダーシップ）	2	後学期				●	山内 一祥	全学
リサーチ・リテラシーⅠ（くらしの中の統計）	2	前学期	●				村山 詩帆	全学
リサーチ・リテラシーⅡ（やさしい統計計算）	2	後学期		●			村山 詩帆	全学
リサーチ・リテラシーⅢ（調査データの分析）	2	前学期			●		村山 詩帆	全学
リサーチ・リテラシーⅣ（人文・社会・自然科学の統計）	2	後学期				●	村山 詩帆 他	全学 他
スポーツイベントとボランティアリーダーⅠ	2	前学期	●				町田・山内	全学・全学
スポーツイベントとボランティアリーダーⅡ	2	後学期		●			町田 正直 他	全学 他
スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ	2	前学期			●		町田 正直 他	全学 他
スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ	2	後学期				●	町田 正直 他	全学 他

医療・福祉と社会コース

授業科目	単位数	開講学期	平成31年度		平成32年度		担当教員	
			前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属
現代社会と医療Ⅰ（医療科学史）	2	前学期	●鍋				青木 歳幸	非
現代社会と医療Ⅱ（医療人キャリアデザイン）	2	前学期	●鍋				吉田 和代	医
現代社会と医療Ⅲ（公害・薬害問題と人権）	2	後学期		●鍋			市場 正良 他	医 他
現代社会と医療Ⅳ（環境と健康：人間環境科学）	2	後学期		●鍋			市場 正良	医
食と健康Ⅰ（食物科学）	2	前学期	●鍋				市場 正良 他	医 他
食と健康Ⅱ（医療人キャリアデザイン）	2	前学期	●鍋				吉田 和代	医
食と健康Ⅲ（運動と栄養）	2	後学期		●鍋			西田裕一郎 他	医 他
食と健康Ⅳ（年齢と健康：薬の話）	2	後学期		●鍋			市場 正良	医
ライフサイクルからみた医療Ⅰ（医療現場における行動科学）	2	後学期		●鍋			江村 正	医
ライフサイクルからみた医療Ⅱ（医療人キャリアデザイン）	2	前学期	●鍋				吉田 和代	医
ライフサイクルからみた医療Ⅲ（障がい特性とテクノエイド）	2	前学期	●鍋				堀川 悦夫	医
ライフサイクルからみた医療Ⅳ（継続して医療のケアが必要な方への生活就労支援）	2	後学期		●鍋			堀川 悦夫	医

※鍋島キャンパスのみで開講される科目を「●鍋」と表示
 ※医学部のカリキュラムの都合により、医学部生は1年次（平成30年度）に4科目を履修するため、平成31年度欄を平成30年度に読み替えること
 ※医学部以外の学生は、2年次前学期から1学期ごとに1科目ずつ履修

地域・佐賀学 コース

授業科目	単位数	開講学期	平成31年度		平成32年度		担当教員	
			前学期	後学期	前学期	後学期	氏 名	所属
佐賀の歴史文化Ⅰ（佐賀の歴史概説）	2	前学期	●				三ツ松 誠	地歴
佐賀の歴史文化Ⅱ（史料からみる佐賀の歴史）	2	後学期		●			宮武 正登	全学
佐賀の歴史文化Ⅲ（佐賀の歴史性と現代）	2	前学期			●		鬼嶋・重藤	教育・芸術
佐賀の歴史文化Ⅳ（佐賀の思想・文化）	2	後学期				●	伊藤 昭弘	地歴
地域経済と社会Ⅰ（地域と産業）	2	前学期	●				戸田順一郎	経済
地域経済と社会Ⅱ（地域マーケティング）	2	後学期		●			山口夕紀子	芸術
地域経済と社会Ⅲ（地域と労働）	2	前学期			●		平地 一郎	経済
地域経済と社会Ⅳ（現代の地方自治）	2	後学期				●	児玉 弘	経済
地域創成学Ⅰ（地域学入門）	2	前学期	●				五十嵐 勉 他	全学 他
地域創成学Ⅱ（NPO・NGO論）	2	後学期		●			五十嵐・小嶋	全学・地域
地域創成学Ⅲ（都市の魅力とその再生を考える）	2	前学期			●		三島 伸雄 他	工学系 他
地域創成学Ⅳ（地域を観る・歩く・調べる）	2	後学期				●	五十嵐 勉 他	全学 他

体育実技

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス				曜日・校時	単位数	
		学 部	学科・課程等	区 分	対象年次			
体育実技Ⅰ	坂 元 康 成	教育・芸術	芸術は表現コースのみ	教育・芸術の学生が定員200名に満たなければ、再履修の学生も認める。	1 年	月 2	1	
	池 上 寿 伸							
	山 津 幸 司							
体育実技Ⅱ	坂 井 充				1 年	月 2	1	
	龍 頭 信 二							
	栗 原 淳							
体育実技Ⅰ	坂 井 充	①再履修生 ②教育・芸術表現コース以外の、教育職員免許状を取る学部生			1 年～	木 3	1	
体育実技Ⅱ	久 富 守							
	町 田 正 直				1 年～	木 4	1	
体育実技Ⅰ	坂 井 充							
	井 上 伸 一							
体育実技Ⅱ	町 田 正 直							

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス				曜日・校時	単位数	
		学 部	学科・課程等	区 分	対象年次			
体育実技Ⅰ	坂 元 康 成	教育・芸術	芸術は表現コースのみ	教育・芸術の学生が定員200名に満たなければ、再履修の学生も認める。	1 年	月 2	1	
	池 上 寿 伸							
	山 津 幸 司							
体育実技Ⅱ	坂 井 充				1 年	月 2	1	
	龍 頭 信 二							
	栗 原 淳							
体育実技Ⅰ	坂 井 充	①再履修生 ②教育・芸術表現コース以外の、教育職員免許状を取る学部生	1 年～	木 3	1			
体育実技Ⅱ	田 口 晴 康							
	町 田 正 直							
体育実技Ⅰ	田 口 晴 康					1 年～	木 4	1
	井 上 伸 一							
体育実技Ⅱ	町 田 正 直							

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

外国人留学生プログラムのための授業科目

前学期

授業科目	担当教員	曜日校時	単位数	
日本語漢字・語彙初級Ⅰ	古 賀 弘 毅	月 2	1	
日本語文法初級Ⅰ	早 瀬 郁 子	火 2・水 1・木 1	3	
日本語会話初級Ⅰ	有 瀬 尚 子	月 1・金 1	2	*
日本語漢字・語彙初級Ⅱ	有 瀬 尚 子	火 2	1	*
日本語文法初級Ⅱ	古賀弘毅・貞松明子	月 1・水 1・木 1	3	*
日本語会話初級Ⅱ	貞 松 明 子	火 1・金 1	2	*
日本語漢字・語彙中級Ⅰ	有 瀬 尚 子	火 1	1	*
日本語文法中級Ⅰ	丹 羽 順 子	月 1・木 1	2	
日本語会話中級Ⅰ	布尾勝一郎・貞松明子	火 2・金 2	2	*
日本語読解作文中級Ⅰ	丹 羽 順 子	水 1	1	
日本語漢字・語彙中級Ⅱ	有 瀬 尚 子	金 2	1	*
日本語文法中級Ⅱ	丹 羽 順 子	金 1	1	
日本語会話中級Ⅱ	平 川 彩 子	月 1	1	*
日本語作文中級Ⅱ	吉 川 達	火 2	1	
日本語聴解中級（A）	吉 川 達	月 3	1	
日本語聴解上級（A）	早 瀬 郁 子	火 1	1	*
日本語作文上級Ⅱ	貞 松 明 子	月 3	1	*
日本語演習（A）	吉 川 達	木 3	1	
日本語演習（B）	平 川 彩 子	月 2	1	*
生活基礎日本語	木 村 ゆり子	集中（6週間）	1	*

後学期

授業科目	担当教員	曜日校時	単位数	
日本語漢字・語彙初級Ⅰ	古 賀 弘 毅	月 2	1	
日本語文法初級Ⅰ	早瀬郁子・満生洋子	火 1・水 1・木 1	3	*
日本語会話初級Ⅰ	有 瀬 尚 子	月 1・金 1	2	*
日本語漢字・語彙初級Ⅱ	森 山 仁 美	火 3	1	*
日本語文法初級Ⅱ	古賀弘毅・貞松明子	月 1・水 1・木 1	3	*
日本語会話初級Ⅱ	貞 松 明 子	火 1・金 1	2	*
日本語漢字・語彙中級Ⅰ	木 村 ゆり子	月 3	1	*
日本語文法中級Ⅰ	丹羽順子・古賀弘毅	月 1・木 1	2	
日本語会話中級Ⅰ	布尾勝一郎・貞松明子	火 2・金 1	2	*
日本語読解作文中級Ⅰ	丹 羽 順 子	水 1	1	
日本語漢字・語彙中級Ⅱ	森 山 仁 美	月 3	1	*
日本語文法中級Ⅱ	丹 羽 順 子	金 1	1	
日本語会話中級Ⅱ	早 瀬 郁 子	火 2	1	*
日本語聴解中級（B）	吉 川 達	金 2	1	
日本語発表上級	満 生 洋 子	水 4	1	*
日本語聴解上級（B）	有 瀬 尚 子	月 2	1	*
日本語演習（C）	吉 川 達	木 3	1	
日本語演習（D）	早 瀬 郁 子	火 4	1	*
生活基礎日本語	木 村 ゆり子	水 3	1	*

学部間共通教育科目

共通専門基礎科目

前学期

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	曜日・校時	単位数
微分積分学基礎Ⅰ	梶木屋 龍 治	理工学部（機能）	1 年	火 2	2
線形代数学基礎Ⅰ	市 川 尚 志	理工学部（機能）	1 年	火 5	2
基礎数学	寺 井 直 樹	農学部	1 年	火 2	2
基礎数学	庄 田 敏 宏	農学部	1 年	火 2	2
基礎数学	日比野 雄 嗣	農学部	1 年	火 2	2
基礎力学	河 野 宏 明	理工学部（電気電子）	1 年	木 4	2

後学期

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	曜日・校時	単位数
微分積分学基礎Ⅱ	梶木屋 龍 治	理工学部（機能）	1 年	月 3	2
基礎力学	河 野 宏 明	理工学部（機能）	1 年	月 1	2
基礎電磁気学	石 渡 洋 一	理工学部（機能）	1 年	火 2	2

短期留学生プログラム教育科目

前学期（SPACE 春学期）

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
日本事情研修B	古賀・丹羽	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	水 4	2
日本事情研修D	吉川・布尾	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	火 3	2
日本に関する WEB ページ製作応用	角 和 博	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2
文法発展導入：言語の文法の構文解析上の実装	古賀・角	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2
第二言語習得・言語教育入門	林 裕 子	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2
理工学部紹介B	カ ー ン 他	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2
概説・農学と環境学	生物環境科学科教員全員	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2
DNA、遺伝子、およびゲノム	永 野 幸 生	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2
自主研究B	関 清 彦	短期留学プログラム受講者	1 年	前学期	未定	2, 4

後学期（SPACE 秋学期）

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
日本事情研修A	古賀・丹羽	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	水 4	2
日本事情研修C	布尾・吉川	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	火 3	2
日本に関する WEB ページ製作入門	角 和 博	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
我が国の環境保全と環境教育	岡 島 俊 哉	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
日本・東南アジア関係論	山 崎 功	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
理工学紹介A	カ ー ン 他	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
概説・応用生物学	応用生物化学科教員全員	短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2
自主研究A		短期留学プログラム受講者	1 年	後学期	未定	2, 4

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

全学教育機構関係規則

佐賀大学全学教育機構規則

佐賀大学教養教育科目履修規程

佐賀大学教養教育科目履修細則

佐賀大学学部間共通教育科目履修規程

佐賀大学における全学統一英語能力テスト実施要項

佐賀大学における全学統一英語能力テストの表彰に関する要項

履修に際し
ての留意点

佐賀大学の
教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育
プログラム

学部間共通
教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の
収容人数

佐賀大学全学教育機構規則

(平成23年3月23日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学基本規則（平成16年4月1日制定）第18条の2第2項の規定に基づき、佐賀大学全学教育機構（以下「機構」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 機構は、佐賀大学（以下「本学」という。）の目的、使命にのっとり、本学の共通教育、国際教育及び高等教育開発並びに本学の教育における情報通信技術の活用支援及び情報メディアによるコンテンツのデザインと研究開発を総合的に行うことにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の質保証に資することを目的とする。

2 前項に規定するもののほか、機構は、本学の目的、使命にのっとり、本学の大学院に置く各研究科における大学院教養教育を支援すること、及び本学の生涯教育を推進することを目的とする。

(定義)

第2条の2 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 共通教育 学部が編成する教育課程における教養教育、分野横断的教育プログラム及び副専攻プログラムの学部に通ずる教育をいう。
- (2) 国際教育 国際社会において主体的に行動できる人材の育成教育（留学生教育（派遣及び受入れ）を含む。）をいう。
- (3) 高等教育開発 本学の教育に関する研究開発、企画及び支援をいう。
- (4) 情報メディアによるコンテンツのデザインと研究開発 多様な情報メディアを用いたコンテンツデザインとそれを活用した教育の企画及び支援をいう。

(業務)

第3条 機構は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育の企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際教育の企画、立案及び実施に関すること。
- (3) 高等教育開発に関すること。
- (4) 情報通信技術を活用した教育の支援に関すること。
- (5) 情報メディアによるコンテンツのデザインと研究開発及び教育支援に関すること。
- (6) 大学院教養教育の企画、立案に関すること。
- (7) 生涯教育に関すること。
- (8) その他前条の目的を達成するための必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 機構に次に掲げる組織を置く。

- (1) 教育組織
- (2) 支援組織

2 前項第1号の教育組織には、教育分野別に組織した部会を置く。

3 第1項第2号の支援組織には、高等教育開発室、情報通信技術活用教育支援室及びコンテンツ共創ラボを置く。

(教育関係共同利用拠点)

第4条の2 機構に、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第143条の2第2項に規定する教育関係共同利用拠点として、他の大学の利用に供するため、クリエイティブ・ラーニングセンターを置く。

2 前項のクリエイティブ・ラーニングセンターに関し必要な事項は、別に定める。

（職員等）

第5条 機構に、次の職員を置く。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 専任の教員
- (4) 併任の教員
- (5) その他必要な職員

2 前項各号に掲げる職員のほか、機構に特任教員を置くことができる。

3 第1項第4号の併任の教員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 第1項各号に掲げる職員のほか、機構が開講する授業科目を担当し、及びその他の機構に関する業務を担当する教員を学内の教員のうちから委嘱し、協力教員とする。

（機構長）

第6条 機構長は、副学長のうちから学長が指名した者をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務をつかさどり、機構の職員を統督する。

3 機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（副機構長）

第7条 副機構長は、本学の専任の教授のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を助け、機構の業務を整理する。

3 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、当該副機構長を指名した機構長の任期の終期を超えることはできない。

4 副機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第8条 削除

（部会長）

第9条 第4条第2項に規定する部会に、部会長を置く。

2 部会長は、部会の業務を掌理する。

3 部会長は、機構の専任又は併任の教授又は准教授のうちから、第12条に規定する運営委員会の議を経て、機構長が定める。

4 部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。

5 部会長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（高等教育開発室長）

第10条 第4条第3項に規定する高等教育開発室に、高等教育開発室長を置く。

2 高等教育開発室長は、副機構長のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

（情報通信技術活用教育支援室長）

第11条 第4条第3項に規定する情報通信技術活用教育支援室に、情報通信技術活用教育支援室長を置く。

2 情報通信技術活用教育支援室長は、機構の専任又は併任の教員のうちから、機構長が指名した者をもって充てる。

3 情報通信技術活用教育支援室長の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 情報通信技術活用教育支援室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(コンテンツ共創ラボ長)

第12条 第4条第3項に規定するコンテンツ共創ラボに、コンテンツ共創ラボ長を置く。

2 コンテンツ共創ラボ長は、機構の専任又は併任の教員のうちから、機構長が指名した者をもって充てる。

3 コンテンツ共創ラボ長の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 コンテンツ共創ラボ長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第13条 機構に、その管理運営に関する重要な事項を審議するため、佐賀大学全学教育機構運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第14条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 専任教員の配置要望その他機構の教員の人事に関する事項
- (2) 共通教育の編成及び実施に関する事項
- (3) 国際教育の編成及び実施に関する事項
- (4) 高等教育開発に関する事項
- (5) 情報通信技術を活用した教育の支援に関する事項
- (6) 情報メディアによるコンテンツのデザインと研究開発及び教育支援に関する事項
- (7) 大学院教養教育の企画、立案に関すること。
- (8) 生涯教育に関すること。
- (9) その他機構の管理運営に関する事項

(組織)

第15条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 部会長
- (4) 高等教育開発室長
- (5) 情報通信技術活用教育支援室長
- (6) コンテンツ共創ラボ長
- (7) 各学部から選出された者 各1人
- (8) その他本学の職員のうちから学長が指名した者

2 前項第7号及び第8号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 第1項第7号及び第8号の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第16条 運営委員会に委員長を置き、機構長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議事を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、副機構長のうちからあらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行する。

(議事)

第17条 運営委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 運営委員会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、第14条第1号及び運営委員会が特に必要があると認めた事項については、出席者の3分の2以上の多数をもって議決しなければならない。

- 3 前2項の議事に当たり、第15条第1項の各委員で同一人が複数の役職を兼ねるときは、当該役職の数にかかわらず、1人の構成員及び1人の出席者として取り扱うものとする。

(専門委員会)

第18条 運営委員会に、専門委員会を置くことができる。

(教員会議)

第19条 機構に、機構長が機構の業務に関し意見聴取及び連絡調整を行うため、教員会議を置く。

(事務)

第20条 機構の事務は、学務部教務課が行う。

(雑則)

第21条 この規則に定めるもののほか、機構に関し必要な事項については、運営委員会の議を経て、機構長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 学長は、この規則施行後2年を経過する前までに、機構に関する検討状況を勘案し、この規則の規定について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に応じて所要の見直しを行うものとする。

附 則 (平成23年10月26日改正)

この規則は、平成23年10月26日から施行する。

附 則 (平成24年3月28日改正)

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行の際現に部門長、部会長、情報通信技術活用教育支援室長及び併任の教員の職にある者の任期は、改正後の第5条第3項、第8条第4項、第9条第4項及び第11条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。
- 3 この規則施行後最初に選出される第14条第1項第7号から第9号までの運営委員会委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。
- 4 佐賀大学高等教育開発センター規則(平成16年4月1日制定)は、廃止する。

附 則 (平成27年3月26日改正)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年2月24日改正)

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 佐賀大学eラーニングスタジオ設置規程(平成21年1月15日制定)は、廃止する。

附 則 (平成28年9月21日改正)

この規則は、平成28年9月21日から施行し、平成28年7月29日から適用する。

附 則 (平成30年3月28日改正)

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行の際現にこの規則による改正前の佐賀大学全学教育機構規則(以下「旧規則」という。)第15条第1項第9号により工学系研究科から選出されている委員は、この規則による改正後の佐賀大学全学教育機構規則(以下「新規則」という。)第15条第1項第7号により理工学部から選出された委員とみなし、その任期は新規則第5条第2項の規定にかかわらず、旧規則第15条第1項第9号により選出された委員としての任期の末日までとする。

佐賀大学教養教育科目履修規程

(平成25年2月27日全部改正)

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定。）第17条第2項の規定に基づき、佐賀大学全学教育機構が開設する教養教育科目の履修等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(教養教育科目の区分)

第2条 教養教育科目の区分は、次のとおりとする。

大学入門科目

共通基礎科目

基本教養科目

インターフェース科目

共通教職科目

2 共通基礎科目は、外国語科目及び情報リテラシー科目に区分する。

3 基本教養科目は、自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野の各授業科目をもって構成する。

4 外国人留学生のための授業科目等の特例は、別に定める。

(単位数)

第3条 各学部が定める学科又は課程の教養教育科目の単位数は、別表のとおりとする。

(授業科目及び履修方法)

第4条 教養教育科目の授業科目、単位数及び履修方法等は、佐賀大学教養教育科目履修細則（平成25年2月27日全部改正）の定めるところによる。

(履修手続)

第5条 学生は、履修しようとする授業科目について、所定の期間に定められた方法により手続をしなければならない。ただし、学期の中途から開始される授業科目については、その都度手続をしなければならない。

(成績判定及び単位の授与)

第6条 授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績判定は、平素の学修状況、学修報告及び試験等によって行う。

3 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

4 前項の規定にかかわらず、成績の判定に当たり、前項に規定する評語により難いと佐賀大学教育委員会が認めた授業科目においては、合又は不可の評語をもって表すことができるものとし、合を合格とし、不可を不合格とする。

(試験)

第7条 試験は、各授業科目につき、学期ごとに行うことを原則とする。

2 追試験及び再試験については、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の単位認定等)

第8条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）における

授業科目の履修、大学以外の教育施設等における学修及び入学前の他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）における授業科目の履修により修得した単位を、所属学部の教授会の議に基づき、認定する。

（科目等履修生）

第9条 科目等履修生に関する事項は、佐賀大学科目等履修生規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

（雑則）

第10条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、佐賀大学全学教育機構運営委員会の議を経て、佐賀大学全学教育機構長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成28年1月27日改正）

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成29年9月27日改正）

- 1 この規程は、平成29年9月27日から施行する。

附 則（平成30年2月28日改正）

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

学 部	学科・課程	教 養 教 育 科 目										
		大学入門科目	共通基礎科目			基本教養科目			インターフェース科目	共通教職科目		合計
			外国語科目	情報リテラシー科目		自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野		体育実技Ⅰ	体育実技Ⅱ	
			英 語	講 義	演 習							
教育学部	学校教育課程	2	4	2	1	8			8	1	1	27
芸術地域 デザイン 学 部	芸術表現コース	2	4	2		12			8	1	1	30
	地域デザインコース	2	4	2		16			8			32
経済学部	経済学科	2	4	2		14			8			30
	経営学科	2	4	2		14			8			30
	経済法学科	2	4	2		14			8			30
医 学 部	医学科	4	4	2	1	14			8			33
	看護学科	2	4	2		14			8			30
理工学部	数理科学科	4	4			18			8			34
	物理科学科	4	4			18			8			34
	知能情報システム学科	4	4	2	1	4	8		8			31
	機能物質化学科	4	4		2	14		8			32	
	機械システム工学科	4	4		2	10		8			28	
	電気電子工学科	4	4	2	1	16			8			35
	都市工学科	4	4	2	1	12			8			31
農 学 部	応用生物科学科	2	4	2	1	20			8			37
	生物環境科学科	2	4	2	1	20			8			37
	生命機能科学科	2	4	2	1	20			8			37

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

佐賀大学教養教育科目履修細則

(平成25年2月27日全部改正)

(趣旨)

第1条 この細則は、佐賀大学教養教育科目履修規程（平成25年2月27日全部改正。）第4条の規定に基づき、教養教育科目の授業科目、単位数及び履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(大学入門科目)

第2条 大学入門科目の授業科目は、大学入門科目Ⅰ及び大学入門科目Ⅱとする。

2 大学入門科目の履修すべき授業科目、修得すべき単位数及び履修時期については、各学部の定めるところによる。

(共通基礎科目)

第3条 共通基礎科目（外国語科目、情報リテラシー科目）の授業科目及び単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

2 共通基礎科目の履修すべき授業科目、修得すべき単位数については、各学部の定めるところによる。

(基本教養科目)

第4条 基本教養科目の各分野における授業科目及び単位数は、別表Ⅱのとおりとする。

2 前項の各分野における授業科目のほか、複数の分野にわたる授業科目として総合科目を開設することがある。

3 学生は、各学部の定めるところにより、「自然科学と技術の分野」、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から所定の単位を修得しなければならない。

(インターフェース科目)

第5条 インターフェース科目は、インターフェースプログラム及びインターフェース演習科目をもって構成する。

2 インターフェースプログラムは、それぞれ4つの授業科目をもって構成する。

3 インターフェースプログラム及びインターフェース演習科目の授業科目及び単位数は、別表Ⅲのとおりとする。

4 インターフェース演習科目の授業科目の単位をインターフェースプログラムの授業科目の単位として認めることがある。

5 学生は、1年次の後学期の終りまでに、インターフェースプログラムのうちから1つのプログラムを選んで登録し、原則として2年次以降に、前項の別表Ⅲに規定するプログラム内の各授業科目を履修し、8単位以上を修得しなければならない。

6 インターフェースプログラム登録の変更は、届出により、2年次の後学期の終りに認めることがある。

7 3年次に転入学、編入学又は再入学した者については、3年次にインターフェースプログラムの登録を行うことができる。

(共通教職科目)

第6条 共通教職科目は、体育実技Ⅰ及び体育実技Ⅱをもって構成する。

2 共通教職科目の履修すべき授業科目、修得すべき単位数については、各学部の定めるところによる。

(授業科目等の特例)

第7条 第2条から前条までに定めるもののほか、外国人留学生のための授業科目として、日本語及び日本事情に関する科目を別表Ⅰ、別表Ⅳ及び別表Ⅴのとおり開設する。

(授業科目の年次等指定)

第8条 授業科目によっては、年次又はクラスを指定することがある。

2 指定されたクラス以外のクラスで履修しようとする場合は、あらかじめ所定の指定外履修願を提出しなければならない。

（単位の授与）

第9条 授業科目の単位は、学期ごとに与える。ただし、特に指定する授業科目の単位は、学年ごとに与える。

（追試験）

第10条 やむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった授業科目について、追試験を行うことがある。

（再試験）

第11条 不合格と判定された授業科目について、再試験を行うことがある。

（雑則）

第12条 この細則に定めるもののほか、教養教育科目の履修に関し必要な事項は、佐賀大学全学教育機構運営委員会の議を経て、佐賀大学全学教育機構長が定める。

附 則

- 1 この細則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年2月26日改正）

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年1月28日改正）

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表Ⅲ（第5条関係）は、平成26年度入学生から適用する。

附 則（平成28年1月27日改正）

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において、別表Ⅱ（第4条関係）を除き、現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、改正後の別表Ⅲ（第5条関係）は、平成27年度に入学した第1年次生及びその年次に転入学、編入学又は再入学する者から適用する。

附 則（平成28年7月27日改正）

この細則は、平成28年10月1日から施行する。

附 則（平成28年11月24日改正）

この細則は、平成28年11月24日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成29年2月22日改正）

この細則は、平成29年2月22日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則（平成29年11月22日改正）

この細則は、平成29年11月22日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（平成30年2月28日改正）

- 1 この細則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表Ⅲ（第5条関係）は、平成30年度に入学した第1年次生及びその年次に転入学、編入学又は再入学する者から適用する。

附 則（平成30年3月28日改正）

- 1 この細則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表Ⅲ（第5条関係）は、平成30年度に入学した第1年次生及びその年次に転入学、編入学又は再入学する者から適用する。

別表Ⅰ（第3条、第6条関係）

共通基礎科目の授業科目及び単位数

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
外 国 語 科 目	英語 A	1	
	英語 B	1	
	英語 C	1	
	英語 D	1	
	アカデミック・ジャパニーズ A	1	外国人留学生のための科目
	アカデミック・ジャパニーズ B	1	
	アカデミック・ジャパニーズ C	1	
	アカデミック・ジャパニーズ D	1	
情報リテラシー科目	情報基礎概論	2	
	情報基礎演習Ⅰ	1	
	情報基礎演習Ⅱ	1	

（備考）

- 外国人留学生が外国語科目を履修する場合は、次に定めるところによる。
 - 母語を選択しないこと。
 - 修得したアカデミック・ジャパニーズ（A、B、C、D）の単位はそれぞれ、英語（A、B、C、D）のいずれかの授業科目の単位に読み替えることができる。
 - 教育職員免許状を取得する場合には、(1)にかかわらず、英語の授業科目の中から、2単位を履修することができる。
- 別に定める「海外語学研修プログラムにおける教養教育科目（外国語科目）の単位認定要項」に基づいて実施された海外語学研修で修得した単位は、履修規程別表（第3条関係）に掲げる英語科目の単位数として含めることができる。

別表Ⅱ（第4条関係）

基本教養科目の授業科目及び単位数

（自然科学と技術の分野）

区 分	授 業 科 目	単位数
基礎自然科学	基礎数理の世界	2
	応用数理の世界	2
	物理の世界Ⅰ	2
	物理の世界Ⅱ	2
	実験物理学	2
	化学の世界A	2
	化学の世界B	2
	実験化学Ⅰ	2
	実験化学Ⅱ	2
	生物学の世界	2
	実験生物学	2
	地学の世界	2
自然科学・技術の現代的諸相	Breakthroughs in the Modern Age	2
	The Natural World	2
	Sustainable Society	2
	情報科学の世界Ⅰ	2
	情報科学の世界Ⅱ	2
	機械工学の世界A	2
	機械工学の世界B	2
	電気電子工学の世界A	2
	電気電子工学の世界B	2
	都市と生活	2
	環境科学Ⅱ	2
	資源循環論Ⅰ	2
	地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし	2
	農業と農地環境	2
	セラミックスの不思議	2
	21世紀のエネルギーと環境問題	2
生物科学・生命科学	生物科学の世界A	2
	生物科学の世界B	2
	生物科学の世界C	2
	生物科学の世界D	2
	栄養科学A	2
	栄養科学B	2
	くらしの中の生命科学	2
	生命科学の基礎A	2
	生命科学の基礎B	2
	生命科学の基礎C	2
	生命科学の基礎D	2
	生命科学の基礎E	2
	生命科学の基礎F	2
特別講義	自然科学と技術の分野特別講義	

（備考）自然科学と技術の分野特別講義の具体的授業科目名及び単位数は、その都度指示する。

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室内の収容人数

(文化の分野)

区 分	授 業 科 目	単位数
言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅰ	2
	ドイツの言語と文化Ⅱ	2
	フランスの言語と文化Ⅰ	2
	フランスの言語と文化Ⅱ	2
	中国の言語と文化Ⅰ	2
	中国の言語と文化Ⅱ	2
	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ	2
	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ	2
	東南アジアの言語と文化	2
	Western Culture	2
	Immersion Program	2
文学と芸術	日本文学	2
	アジアの文化・文学	2
	欧米の文化・文学	2
	芸術論	2
	画像へのアプローチ	2
	伝統工芸と匠	2
	映像制作入門	2
	シルクロード入門	2
言語と表現	日本語学	2
	言語学	2
	応用言語学	2
	コミュニケーション論	2
	記号論	2
	Critical Thinking for the Modern Age	2
	Cultural Metaphors	2
	デジタル表現技法	2
	教育デジタル表現	2
	プロデューサー原論	2
	映画製作	2
	3DCG 表現	2
	アニメーション表現	2
	立体アニメーション入門	2
歴史と文化	哲学・倫理学	2
	東洋思想	2
	考古学	2
	日本史	2
	東洋史	2
	西洋史	2
	人類学	2
	スポーツウェルネスの世界	2
特別講義	文化の分野特別講義	

(備考) 文化の分野特別講義の具体的授業科目名及び単位数は、その都度指示する。

(現代社会の分野)

区 分	授 業 科 目	単位数
基礎社会科学	経済学	2
	会計学	2
	経営学	2
	法律学	2
	政治学	2
	日本国憲法	2
	社会思想史	2
	地理学	2
	Introduction to Sociology	2
教育と人間	教育学	2
	地域・社会と教育	2
	心理学A	2
	心理学B	2
	心理学C	2
	健康科学A	2
	健康科学B	2
	スポーツと健康	2
	障がい者支援論	2
	Citizenship Education	2
	Life in the Global World	2
	情報メディアと倫理	2
	身体表現入門	2
	シナリオ入門	2
	心の個人差	2
	心身の障害	2
	心の病と癒しのプロセス	2
	子どもの病気と子育て	2
	発達障害の理解と支援	2
	心身の発達過程	2
現代社会の諸相	現代人権論	2
	ジャーナリズムの現在	2
	アジアコミュニティ論	2
	知的財産学	2
	環境科学Ⅰ	2
	環境科学Ⅲ	2
	環境会計	2
	作業環境測定論	2
	高齢者・障がい者の生活・就労支援概論	2
	高齢者・障がい者就労支援の諸理論	2
	インストラクショナル・デザイン	2
特別講義	現代社会の分野特別講義	

(備考) 現代社会の分野特別講義の具体的授業科目名及び単位数は、その都度指示する。

(総合科目)

授 業 科 目	単位数	備 考
海外交流実習	2	総合科目の授業科目の履修により修得した単位は、4単位を上限として基本教養科目の各分野いずれかの単位数に含めることができる。
キャリアデザイン	2	
佐賀版キャリアデザイン	2	
グループワークの技法と実践	2	
データサイエンスへの招待	2	
チャレンジ・インターンシップA	1	
チャレンジ・インターンシップB	2	

別表Ⅲ（第5条関係）

インターフェース科目の授業科目及び単位数

（環境コース）

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
機械工学と環境	機械工学と環境Ⅰ	2
	機械工学と環境Ⅱ	2
	機械工学と環境Ⅲ	2
	機械工学と環境Ⅳ	2
電気電子工学と環境	電気電子工学と環境Ⅰ	2
	電気電子工学と環境Ⅱ	2
	電気電子工学と環境Ⅲ	2
	電気電子工学と環境Ⅳ	2
有明海学	有明海学Ⅰ	2
	有明海学Ⅱ	2
	有明海学Ⅲ	2
	有明海学Ⅳ	2
地域環境の保全と市民社会	地域環境の保全と市民社会Ⅰ	2
	地域環境の保全と市民社会Ⅱ	2
	地域環境の保全と市民社会Ⅲ	2
	地域環境の保全と市民社会Ⅳ	2

（文化と共生コース）

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
芸術創造	芸術創造Ⅰ	2
	芸術創造Ⅱ	2
	芸術創造Ⅲ	2
	芸術創造Ⅳ	2
異文化交流	異文化交流Ⅰ	2
	異文化交流Ⅱ	2
	異文化交流Ⅲ	2
	異文化交流Ⅳ	2
Intercultural Communication	Intercultural CommunicationⅠ	2
	Intercultural CommunicationⅡ	2
	Intercultural CommunicationⅢ	2
	Intercultural CommunicationⅣ	2
映像・デジタル表現	映像・デジタル表現Ⅰ	2
	映像・デジタル表現Ⅱ	2
	映像・デジタル表現Ⅲ	2
	映像・デジタル表現Ⅳ	2
肥前陶磁器産業体験	肥前陶磁器産業体験Ⅰ	2
	肥前陶磁器産業体験Ⅱ	2
	肥前陶磁器産業体験Ⅲ	2
	肥前陶磁器産業体験Ⅳ	2
ドイツの歴史・文化探究	ドイツの歴史・文化探究Ⅰ	2
	ドイツの歴史・文化探究Ⅱ	2
	ドイツの歴史・文化探究Ⅲ	2
	ドイツの歴史・文化探究Ⅳ	2
フランスの歴史・文化探究	フランスの歴史・文化探究Ⅰ	2
	フランスの歴史・文化探究Ⅱ	2
	フランスの歴史・文化探究Ⅲ	2
	フランスの歴史・文化探究Ⅳ	2
日・中・韓の文化	日・中・韓の文化Ⅰ	2
	日・中・韓の文化Ⅱ	2
	日・中・韓の文化Ⅲ	2
	日・中・韓の文化Ⅳ	2

(生活と科学コース)

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
食料と生活	食料と生活Ⅰ	2
	食料と生活Ⅱ	2
	食料と生活Ⅲ	2
	食料と生活Ⅳ	2
データサイエンス	データサイエンスⅠ	2
	データサイエンスⅡ	2
	データサイエンスⅢ	2
	データサイエンスⅣ	2
未来を拓く材料の科学	未来を拓く材料の科学Ⅰ	2
	未来を拓く材料の科学Ⅱ	2
	未来を拓く材料の科学Ⅲ	2
	未来を拓く材料の科学Ⅳ	2
エレクトロニクスと生活	エレクトロニクスと生活Ⅰ	2
	エレクトロニクスと生活Ⅱ	2
	エレクトロニクスと生活Ⅲ	2
	エレクトロニクスと生活Ⅳ	2
情報技術者キャリアデザイン	情報技術者キャリアデザインⅠ	2
	情報技術者キャリアデザインⅡ	2
	情報技術者キャリアデザインⅢ	2
	情報技術者キャリアデザインⅣ	2
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅰ	2
	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅱ	2
	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅲ	2
	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅳ	2

(人間と社会コース)

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップⅠ	2
	アントレプレナーシップⅡ	2
	アントレプレナーシップⅢ	2
	アントレプレナーシップⅣ	2
チームビルディングとリーダーシップ	チームビルディングとリーダーシップⅠ	2
	チームビルディングとリーダーシップⅡ	2
	チームビルディングとリーダーシップⅢ	2
	チームビルディングとリーダーシップⅣ	2
リサーチ・リテラシー	リサーチ・リテラシーⅠ	2
	リサーチ・リテラシーⅡ	2
	リサーチ・リテラシーⅢ	2
	リサーチ・リテラシーⅣ	2
スポーツイベントとボランティアリーダー	スポーツイベントとボランティアリーダーⅠ	2
	スポーツイベントとボランティアリーダーⅡ	2
	スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ	2
	スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ	2

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

(医療・福祉と社会コース)

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
現代社会と医療	現代社会と医療Ⅰ	2
	現代社会と医療Ⅱ	2
	現代社会と医療Ⅲ	2
	現代社会と医療Ⅳ	2
食と健康	食と健康Ⅰ	2
	食と健康Ⅱ	2
	食と健康Ⅲ	2
	食と健康Ⅳ	2
ライフサイクルからみた医療	ライフサイクルからみた医療Ⅰ	2
	ライフサイクルからみた医療Ⅱ	2
	ライフサイクルからみた医療Ⅲ	2
	ライフサイクルからみた医療Ⅳ	2

(地域・佐賀学コース)

インターフェースプログラム	授 業 科 目	単位数
佐賀の歴史文化	佐賀の歴史文化Ⅰ	2
	佐賀の歴史文化Ⅱ	2
	佐賀の歴史文化Ⅲ	2
	佐賀の歴史文化Ⅳ	2
地域経済と社会	地域経済と社会Ⅰ	2
	地域経済と社会Ⅱ	2
	地域経済と社会Ⅲ	2
	地域経済と社会Ⅳ	2
地域創成学	地域創成学Ⅰ	2
	地域創成学Ⅱ	2
	地域創成学Ⅲ	2
	地域創成学Ⅳ	2

(インターフェース演習科目)

授 業 科 目	単位数
インターフェース演習	2

(備考) インターフェース演習は、各コースのインターフェースプログラムを構成する科目とは別に、特定の課題を掲げて、2単位として開講する。本授業科目について修得した単位は、担当教員と、関係するインターフェース部長及びプログラム責任者との協議に基づき、当該プログラムの単位数に含めることができる。

別表Ⅳ（第7条関係）

外国人留学生のための授業科目及び単位数

授 業 科 目	分 野	単位数
日本事情－自然科学と技術	自然科学と技術	2
日本事情－文化	文化	2
日本事情－現代社会	現代社会	2

（備考）上記の授業科目について修得した単位は、履修規程別表（第3条関係）に掲げる基本教養科目のそれぞれの分野の単位数に含めることができる。

別表Ⅴ（第7条関係）

外国人留学生プログラムのための授業科目及び単位数

授 業 科 目	単位数
日本語漢字・語彙初級Ⅰ	1
日本語文法初級Ⅰ	3
日本語会話初級Ⅰ	2
日本語漢字・語彙初級Ⅱ	1
日本語文法初級Ⅱ	3
日本語会話初級Ⅱ	2
日本語漢字・語彙中級Ⅰ	1
日本語文法中級Ⅰ	2
日本語会話中級Ⅰ	2
日本語読解作文中級Ⅰ	1
日本語漢字・語彙中級Ⅱ	1
日本語文法中級Ⅱ	1
日本語会話中級Ⅱ	1
日本語読解中級Ⅱ	1
日本語作文中級Ⅱ	1
日本語聴解中級（Ａ）	1
日本語聴解中級（Ｂ）	1
日本語発表上級	1
日本語聴解上級（Ａ）	1
日本語聴解上級（Ｂ）	1
日本語作文上級Ⅰ	1
日本語作文上級Ⅱ	1
日本語演習（Ａ）	1
日本語演習（Ｂ）	1
日本語演習（Ｃ）	1
日本語演習（Ｄ）	1
生活基礎日本語	1

佐賀大学学部間共通教育科目履修規程

(平成25年 2 月27日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学学則（平成16年 4 月 1 日制定。以下「学則」という。）第16条第 6 項及び佐賀大学全学教育機構規則（平成23年 3 月23日制定）第 3 条第 1 項の規定に基づき、佐賀大学全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の履修等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学部間共通教育科目の区分)

第2条 学部間共通教育科目は、共通専門基礎科目、特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目に区分する。

2 共通専門基礎科目は、一般的かつ基礎的な専門教育科目とする。

3 特定プログラム教育科目は、学則第17条の 2 第 1 項により編成される全学共通の教育プログラムにおいて開設する全学の学生を対象とした専門教育科目とする。

4 留学生プログラム教育科目は、佐賀大学短期留学プログラム規程（平成16年 4 月 1 日制定）に基づく佐賀大学短期留学プログラムにおいて開設する専門教育科目とする。

(授業科目)

第3条 学部間共通教育科目の授業科目及び単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

(単位の認定)

第4条 学部間共通教育科目の履修により修得した単位を卒業に必要な単位数に算入できる単位数は、各学部の学科又は課程ごとに、別表Ⅱ及び別表Ⅲのとおりとする。

(準用規定)

第5条 学部間共通教育科目の履修手続、成績判定、単位の授与及び試験については、佐賀大学教養教育科目履修規程（平成25年 2 月13日全部改正）の規定を準用する。

(科目等履修生)

第6条 科目等履修生に関する事項は、佐賀大学科目等履修生規程（平成16年 4 月 1 日制定）の定めるところによる。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、佐賀大学全学教育機構運営委員会の議を経て、佐賀大学全学教育機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成25年 4 月 1 日から施行する。

2 平成25年 3 月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、この規程を適用しない。

附 則（平成26年 3 月28日改正）

1 この規程は、平成26年 4 月 1 日から施行する。

2 平成26年 3 月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、改正後の別表Ⅲの規定は、平成25年度入学生及び平成25年度入学生の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者から適用する。

附 則（平成28年 2 月24日改正）

1 この規程は、平成28年 4 月 1 日から施行する。

2 平成28年 3 月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成29年 2 月22日改正）

1 この規程は、平成29年 4 月 1 日から施行する。

2 平成29年 3 月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表Ⅰ（第3条関係）

学部間共通教育科目の授業科目及び単位数

区 分		授 業 科 目	単位数	
共通専門基礎科目		微分積分学基礎Ⅰ	2	
		微分積分学基礎Ⅱ	2	
		線形代数学基礎Ⅰ	2	
		基礎数学	2	
		基礎力学	2	
		基礎電磁気学	2	
特定プログラム 教育科目	デジタル表現技術者養成 教育科目	Web 表現	2	
		プログラミング表現	2	
		映像表現	2	
		デジタルメディア・デザイン	2	
留学生プログラム教育科目		日本事情研修A	2	
		日本事情研修B	2	
		日本事情研修C	2	
		日本事情研修D	2	
		日本事情研修E	2	
		日本事情研修F	2	
		自主研究A	2	
		自主研究B	2	
		自主研究C	6	
		自主研究D	6	
		分野専門科目	教育学部分野専門科目	各 2
			芸術地域デザイン学部分野専門科目	各 2
			経済学部分野専門科目	各 2
			理工学部分野専門科目	各 2
農学部分野専門科目	各 2			

備考 留学生プログラム教育科目の分野専門科目は、各学部が設定する科目であり、授業科目は、学期ごとに別に定める。

別表Ⅱ（第4条関係）

共通専門基礎科目の履修により修得した単位を卒業に必要な単位数に算入できる単位数

学部	学科・課程	授業科目	単位数	計
理 工 学 部	機能物質化学科	微分積分学基礎Ⅰ	2	10
		微分積分学基礎Ⅱ	2	
		線形代数学基礎Ⅰ	2	
		基礎力学	2	
		基礎電磁気学	2	
	電気電子工学科	基礎力学	2	2
農 学 部	応用生物科学科	基礎数学	2	2
	生物環境科学科	基礎数学	2	2
	生命機能科学科	基礎数学	2	2

別表Ⅲ（第4条関係）

特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目の履修により修得した単位を卒業に必要な単位数に算入できる単位数の上限

学部	学科・課程	単位数		計
		特定プログラム教育科目	留学生プログラム教育科目	
		デジタル表現技術者養成教育科目		
教育学部	学校教育課程	教育学部履修細則に定める自由選択科目の単位数の範囲内とする。		
芸術地域 デザイン学部	芸術表現コース	8		8
	地域デザインコース	8		8
経済学部	経済学科			
	経営学科			
	経済法学科			
医学部	医学科	2		2
	看護学科			
理工学部	数理科学科	2		2
	物理科学科	6		6
	知能情報システム学科			
	機能物質化学科			
	機械システム工学科			
	電気電子工学科			
	都市工学科	8		8
農学部	応用生物科学科	8		8
	生物環境科学科	8		8
	生命機能科学科	8		8

佐賀大学における全学統一英語能力テスト実施要項

(平成25年4月24日制定)

(趣旨)

第1 この要項は、佐賀大学（以下「本学」という。）における学生の英語力の向上を目的とする全学統一英語能力テスト（以下「英語能力テスト」という。）の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2 英語能力テストの目的は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 学生に明確な学習目標を与えるとともに、自律的かつ持続的学習を促すこと。
- (2) 学生の入学後の英語力の推移を測定・検証し、本学の英語教育の改善に資するとともに、本学全体の学生の英語力の向上を図ること。
- (3) 本学学生の英語力を客観的な指標を用いて測定し、教育の質保証に資すること。
- (4) 英語力を備えた国際的人材の養成という社会及び企業からの要請に応えること。

(活用方法)

第3 英語能力テストは、次に掲げる事項に活用することができる。

- (1) 習熟度別クラス編制を行うための判定試験
- (2) 授業科目の成績評価への一定割合の反映
- (3) 英語の学修成果の測定
- (4) 外国語能力検定試験の単位認定
- (5) 外国の大学への留学に関する学内選考の基準
- (6) その他活用が適当と認められる事項

2 学部・学科等が必要と認めたときは、前項に定める事項以外に英語能力テストの結果を活用することができる。

3 第1項各号の事項の具体的活用方法については、別に定める。

(対象者)

第4 英語能力テストの対象者は、平成25年度以降に入学した学部の正規課程の学生（編入学生を除く。以下同じ。）とする。ただし、学部・学科等が必要と認めた場合は、この限りでない。

(実施時期等)

第5 英語能力テストは、1年次生に対しては前学期に実施し、2年次生に対しては後学期に実施する。

2 前項の規定にかかわらず、同項に規定する実施時期以外の実施及び他の年次生に対しての実施を認めることができる。

(実施する英語能力テスト)

第6 英語能力テストとして実施する外国語能力検定試験の種類は、TOEIC-IP とする。

(経費負担)

第7 この要項に定める英語能力テストの実施に要する経費については、国立大学法人佐賀大学が負担する。

(英語能力テストの結果及びデータの取扱い)

第8 英語能力テストの結果については、学生本人に通知するとともに、様々な角度からのデータ分析を行い、必要に応じて学内の会議等における共有及び学部・学科等へのデータ提供を行う。

2 前項の英語能力テストの結果及びデータの取扱いについて必要な事項は、別に定める。

(表彰)

第9 英語能力テストの結果が優秀な者に対しては、表彰を行うことができる。

2 前項の表彰について必要な事項は、別に定める。

(実施体制等)

第10 英語能力テストの実施について必要な事項は、佐賀大学全学教育機構長（以下「全学教育機構長」という。）の下に置かれる佐賀大学全学教育機構英語能力試験実施委員会が検討する。

2 学部・学科等は、英語能力テストの実施について協力するものとする。

(方策の検討・実施)

第11 本学、学部・学科等及び佐賀大学全学教育機構は、英語能力テストの結果等を踏まえ、学生の自律的かつ持続的な英語学習を促し、及び英語力を向上させるための方策を検討し、実現可能なものから順次実施しなければならない。

(雑則)

第12 この要項に定めるもののほか、英語能力テストの実施に必要な事項は、全学教育機構長が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成25年4月24日から実施し、平成25年4月1日から適用する。

2 第4の規定にかかわらず、平成25年度に実施する英語能力テストについては、学部・学科等と協議の上、平成24年度以前に入学した学部の正規課程の学生についても対象者として行うことができる。

附 則（平成28年3月24日改正）

この要項は、平成28年4月1日から実施し、平成25年度以降の入学生及び編入学生から適用する。

佐賀大学における全学統一英語能力テストの表彰に関する要項

(平成26年 6 月13日制定)

(趣旨)

第1 この要項は、佐賀大学における全学統一英語能力テスト実施要項（平成25年 4 月24日制定）第9 第2 項の規定に基づき、全学統一英語能力テスト（以下「英語能力テスト」という。）の結果に基づく表彰の対象及び基準等の必要な事項について定めるものとする。

(表彰の対象及び基準)

第2 表彰の対象とする学生及び基準については、次の表のとおりとする

賞の名称	表彰の対象とする学生	表彰の基準	
(1) 優秀賞	前学期に実施する英語能力テストを受験した学生	英語能力テストの結果が以下のいずれかに該当する学生	
	後学期に実施する英語能力テストを受験した学生	①900点以上得点した学生 ②得点が上位10位までの学生	
(2) ジャンプアップ賞	①1年次前学期と2年次後学期に実施する英語能力テストのいずれも受験した学生 ②1年次前学期と後学期に実施する英語能力テストのいずれも受験した医学部学生	1年次前学期に実施する英語能力テストの結果と2年次後学期（医学部生は1年次後学期）に実施する同テストの得点差（伸び）が、以下①～⑥に該当する学生のうち、段階ごとに得点差の大きい上位2人の学生	
		段階	1年次前学期に実施した英語能力テストの得点
		①	735点以上
		②	635点～730点
		③	535点～630点
		④	435点～530点
		⑤	335点～430点
		⑥	235点～330点
		2年次後学期（医学部生は1年次後学期）に実施した英語能力テストとの得点差（伸び）	
		50点以上	
		100点以上	
		150点以上	
		200点以上	
		250点以上	
		300点以上	

(表彰の方法)

第3 表彰は、全学教育機構長が表彰状を授与することにより行う。

(表彰の例外)

第4 第2の基準を満たす場合であっても、全学教育機構長が表彰にふさわしくないと判断したときには、表彰の対象としない。

附 則

この要項は、平成26年 6 月13日から実施し、平成25年度後学期に実施した英語能力テストを受験した者が

ら適用する。

附 則（平成28年 3 月24日改正）

この要項は、平成28年 4 月 1 日から実施する。

附 則（平成29年12月27日改正）

- 1 この要項は、平成30年 4 月 1 日から実施する。
- 2 平成30年 3 月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

全学教育機構配置図

履修に際し
ての留意点

佐賀大学の
教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育
プログラム

学部間共通
教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の
収容人数

全学教育機構周辺建物配置図



履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

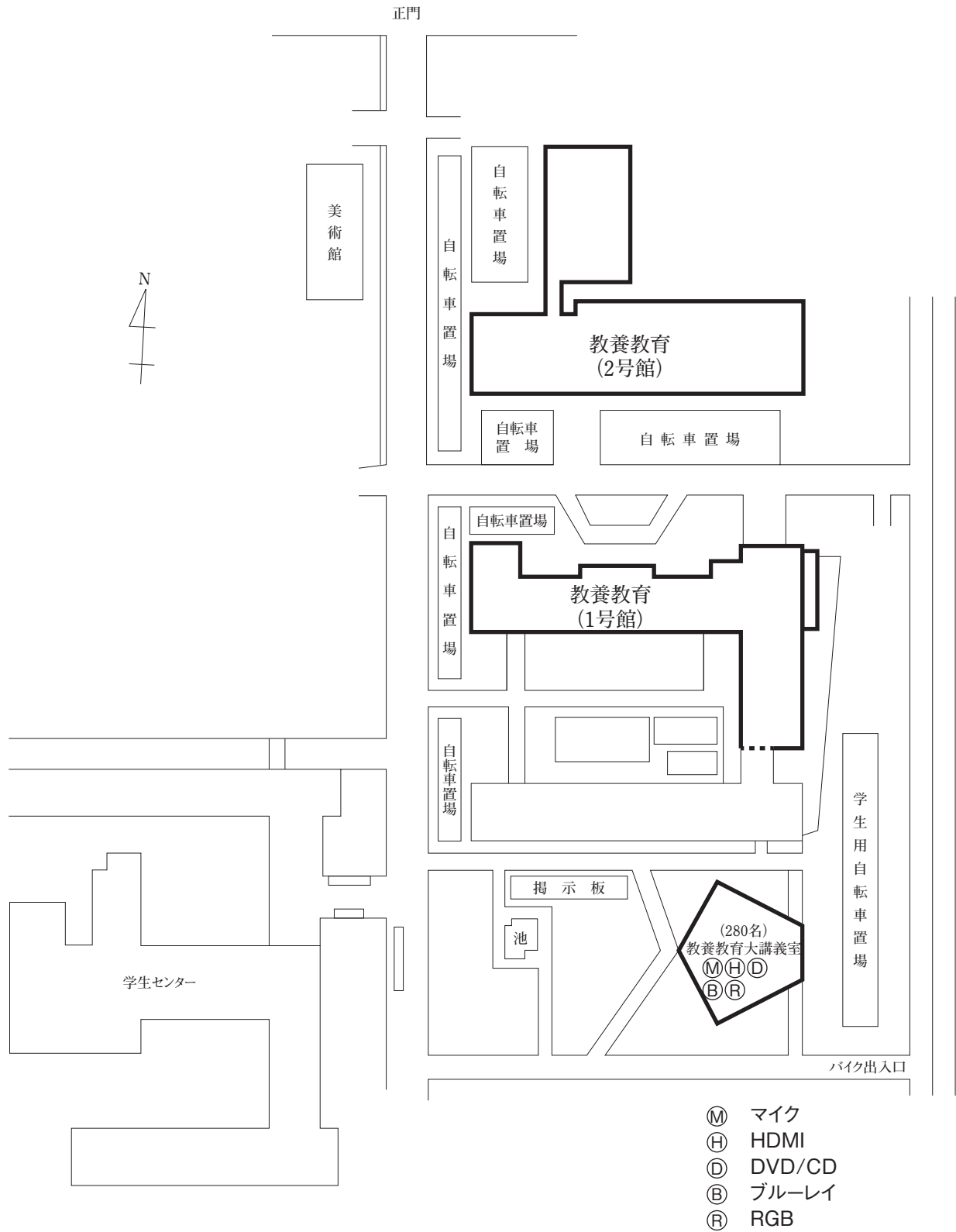
科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

建物等配置図



教室収容人数一覧

部局	区分	階	教室	収容人数	
				授業時	試験時
全学教育機構	教養教育1号館	1 F	111	107	72
			化・生実	60	—
		2 F	121	117	77
			122	60	56
			123	84	56
			124	75	50
			125	121	71
			126	18	—
			127	18	—
			128	18	—
			129	126	84
		3 F	131	123	81
			132	60	60
			133	84	56
			134	75	50
			135	120	71
			物 準	18	—
			物・地実	36	—
		4 F	141	96	60
			142	60	60
			143	87	58
			144	97	58
			145	127	75
	教養教育2号館	1 F	2101	201	134
			2103AL	56	40
			2104AL	56	40
			2108AL	30	30or20
			2109AL	63	63or42
			2110AL	63	63or42
		2 F	2201	218	136
			2202AL	84	60
			2203AL	56	40
			2204AL	56	40
			2209LM	64	—
		3 F	2301	201	134
			2318LM	48	—
	大講義室			280	176

可動式机・椅子

同期型遠隔システム

同期型遠隔システム

可動式机・椅子

可動式机・椅子

同期型遠隔システム

可動式机・椅子

可動式机・椅子

タブレット付き椅子のみ

タブレット付き椅子のみ

タブレット付き椅子のみ

可動式机・椅子

可動式机・椅子

可動式机・椅子

履修に際しての留意点

佐賀大学の教育課程

教養教育科目

履修方法

特定の教育プログラム

学部間共通教育科目

試験と再履修

科目の概要

科目一覧

関係規則

配置図

各教室の収容人数

全学教育機構 履修の手引き

平成30年 4 月

編集発行 佐賀大学全学教育機構

佐賀市本庄町 1 番地

T E L 0952 (28) 8817

印 刷 (株)昭和堂 佐賀営業所

佐賀市鍋島町大字八戸溝1449－ 2

T E L 0952 (33) 1221
